

平成 25 年 度

九州大学大学院医学系学府
医療経営・管理学専攻専門職学位課程

授 業 計 画

Syllabus

九州大学大学院医学系学府

目 次

九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程について

1. 教育内容	1
2. 分野の内容及び特徴	1
3. カリキュラムの編成方針	2
4. 履修方法	3
5. 修了要件	3
6. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程の予想される進路	3
7. 授業科目の講義内容	5
(1) 医療学基礎科目群	5
(2) 共通基礎科目群	6
(3) 必修専門科目群	7
(4) 選択専門科目群	8
(5) 研究分野指導教員及び担当授業科目	10
8. 授業科目の講義内容	13
(1) 医療学基礎科目群	14
(2) 共通基礎科目群	22
(3) 必修専門科目群	33
(4) 選択専門科目群	49
9. 授業科目及び修得すべき単位数	71
10. 履修モデル	73
11. 平成25年度授業時間割	74
12. 医療経営・管理学専攻最終成果物執筆要領	76
13. 医療経営・管理学専攻成績評価規則	77
14. 学生生活のしおり	78
15. 学年暦	83

九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻専門職学位課程について

1. 教育内容

本専攻は、専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人の育成を目的とする。欧米の公衆衛生大学院は、疫学・生物統計学等の基礎系学科と医療管理・経営、医療経済等の中核的学科を中心に、各公衆衛生大学院が特色ある学科を設けている。

本専攻は、疫学・生物統計学等を基盤に、欧米の大学院の中核学科である医療政策・医療経営・医療管理の分野に、本専攻の特色として医療コミュニケーションの分野を加えて構成し、医療・保健に関する幅広い問題について総合的な教育研究を行う。

専攻の学生は明確な目的意識をもって入学することを想定しており、教育は、医療経営・管理に必要な共通の基礎的な知識の習得の上に、学生個々の目的・適性・能力等に応じ、指導教員の指導により、さらなる専門的、実践的な知見を深めることを目指す。

本専攻は、医療の求める新たな分野の高度専門職業人の養成に特化した教育を行うため、人材育成に特化した教育課程を編成する必要がある。

このため、本専攻では医療政策学分野、医療経営学分野、医療管理学分野及び医療コミュニケーション学分野の教育を行う。学生は自分の必要に応じて、講義を自ら選択して学ぶことができる。

2. 分野の内容及び特徴

(1) 医療政策学分野

- ① 社会保障の理念のもとでの医療・福祉行政のあり方としくみ、公衆衛生を理解し、我が国の現行システムの問題点を把握する。
- ② 医療行政と医療政策にとって必要な法規・機構を理解する。
- ③ 現行システムを変換し、個人の生きがいや理念を重視したシステムを実現する場合に、政治過程の果たす役割を理解する。
- ④ 医療サービスに対する需要・供給両面にわたるさまざまな利害関係者間の多様な利害を調整し、コンセンサスを形成する技術を学ぶ。
- ⑤ 医療計画を設計し、PDCAサイクルを回して改善していく技術を学ぶ。

(2) 医療経営学分野

- ① 国民経済に占める医療経済の位置づけ、医療資源の配分、国民総生産に対する医療費の割合など、少子化・高齢化の進行の中でのマクロ的視点からの医療経済について理解する。
- ② 医療経済の特性である社会保障制度と市場原理、医療保険等による収入と医療サービス、診療圏における患者の需要と医療機関の供給計画等の医療経済の側面について理解する。
- ③ 安定した医療経営に必要な経営戦略、経営組織、事業計画、マーケティング、患者満足度調査等の手法について、具体的な医療機関の事例を中心に理解する。
- ④ 医療経営に関する国際比較等、国際的な動向を踏まえた理解を深める。

(3) 医療管理学分野

- ① 医療組織ならびに医療現場を「管理」という視点から学習する。
- ② 「管理」の基礎知識については、必修専門科目の「医療管理学」で学習する。
- ③ 個別の「管理」項目については、選択専門科目の「医療人事管理論」「医療財務管理論」「病院管理論」で学習する。
- ④ 特に「質の管理」・「安全管理」について今日的な視点から学習する機会として、選択専門科目（特別選択科目Ⅱ）に「医療安全管理論」を設けている。
- ⑤ 医療紛争・訴訟が増加している現実のなかで、必修専門科目の「医療コミュニケーション学Ⅰ」、選択専門科目の「医療訴訟論」「病院コミュニケーション論」によって、紛争・訴訟の防止と対応の本格的な考え方と対応の実際を総合的に学習する。

(4) 医療コミュニケーション学分野

- ① コミュニケーション学分野における基礎的な事項を理解し、コミュニケーション技法を身につける。
- ② 医療者と患者間の効果的なコミュニケーションを阻害する要因を理解する。
- ③ 医療者・患者間のコミュニケーションと医療の質の関係を理解する。
- ④ 患者や家族の心理的な状況を理解し、より良い治療関係を構築するコミュニケーション技法を身につける。
- ⑤ 医療従事者のストレス要因と効果的なストレスマネジメントの方法について理解する。
- ⑥ 医療従事者に必要なアサーショントレーニングやリラクセーションなどのストレスマネジメントの具体的な技法について体験を通して理解する。

3. カリキュラムの編成方針

- (1) 専門職大学院の理念をふまえる。
- (2) 外部評価の指摘事項を含め、専門大学院2年間の経験を生かしカリキュラムに組み入れる。
- (3) 医学・医療に関する基礎知識の上に立って専攻教育を行うため、非医系学生（医学、歯学、薬学、保健学、看護学以外の学部又は学科の卒業者）に医療学基礎科目群（医学概論、分子医学概論、内科学及び外科学）を履修させ、医学知識を修得させる。
- (4) 四つの分野で教育を行うが、いずれの分野も、学術研究に基づく研究体系を基盤に、極めて実践的な教育を必要とするものであり、大学教員と実務経験者の教員の授業科目を効果的に組み合わせ教育を行う。
- (5) 授業科目は、指導教員の履修指導により、本人の適性、能力、希望する進路に応じた柔軟な履修が可能なものとする。
- (6) 指導教員は、医療経営・管理学講座の教員をもって充て、学習内容を深めることができるように編成する。必要がある場合は、他講座や他学府の教員に依頼し、特定分野について指導を依頼することもある。
- (7) 授業科目は、ケース・スタディ、討議、現地調査を多く取り入れた実践的内容で実施する。特

に大学病院をはじめ、大学外部の病院・福祉施設などにも実習場所を確保し、実践的な授業方法を可能にする。

- (8) 授業方法は、シラバスを明確にし、確実な予習を基にした授業科目の履修を中心に、プレゼンテーション、ミニテスト、レポートなどにより理解度を把握しながら自発的学習を促していく。

4. 履修方法

- (1) 授業科目を医療学基礎科目群、共通基礎科目群、必修専門科目群、選択専門科目群の4群で構成する。
- (2) 医療学基礎科目群は、非医系学生（医学科、歯学科、薬学科、保健学科、看護学科以外の学科の卒業者）が最小限度の医学知識を修得するもので、必修科目とし、4単位を修得しなければならない。医系学生は履修の必要はない。
- (3) 共通基礎科目群は、各分野において履修する上での基礎的知識を修得するための共通科目とし、6単位以上修得しなければならない。
- (4) 必修専門科目群は、全学生とも12単位全て修得しなければならない。
- (5) 医療学基礎科目群及び共通基礎科目群のうち、修了要件として必要な単位数以上に修得した科目の単位は、選択科目群の単位数として認めるものとする。
- (6) 一学期に履修科目として登録することができる単位数は25単位を上限とする。
- (7) 指導教員は、教育上必要があると認めるときは、専門科目群の履修に代わり、他の教育部、学部の授業科目を指定して履修させることができる。
- (8) 教育上有益と認めるときは、入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本専攻における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

5. 修了要件

医系学生、非医系学生ともに、2年以上在学し、指定の授業科目から30単位以上を修得し、その他当専門職大学院の定める教育課程を修了すること。

4. 履修方法の（8）による場合は、在学期間を短縮できる場合がある。

修了要件を満たした者には医療経営・管理学修士（専門職）の学位を授与する。

6. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程の予想される進路

医療経営・管理学専攻修了後に従事する業務を分野別に列記すれば以下のとおりである。

いずれも体系的教育体制が確立されていない分野であり、修了者は、この分野のパイオニアであり指導者として、国内のみならず、国際的にも活躍することが期待される。

(1) 医療政策学分野

本分野では、保健、医療、福祉等のあらゆる分野での政策立案業務に従事することが期待される。特に、保健医療福祉関係の行政分野に活躍の場が予想される国・地方自治体の行政官、地域

医師会のリーダー，医療・福祉団体の管理者，医療従事者を教育訓練する専門家などとして活躍が期待される。

(2) 医療経営学分野

本分野では，医療経営マネージャーとして，病院経営に直接・間接的に従事することが期待される。主な進路としては，病医院や経営コンサルタント，シンクタンク等その進路は幅広いと想定している。九州地区の200床以上の病院は470あり，また，厚生労働省所管の公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会の資格認定試験には毎年250人近くが受験しており，経営環境の変化の中で，多くの病院・老人保健施設，シンクタンク等において，医療経営の専門家として，本専攻修了者の活躍が期待される。

(3) 医療管理学分野

本分野では，医療機関の経営者として活躍することはもとより，いわゆる管理職として組織ならびに現場のあらゆる管理業務において活躍することが期待される。特に近年，医療の現場における「質の管理」・「安全管理」が切実な課題になっているなかで，専門的な知識を有する人材の養成が急務となっている。すでに「安全管理者」「リスクマネージャー」に代表される新しい職種の配置も始まっており，「管理」を習得した修了者の活躍の可能性はますます広がっていくといえる。

なお，活躍の場は，医療機関の内部ばかりではなく，医療機関の経営者や管理職と対応することが想定される医療機関を取り巻く様々な組織や職種にもあることはいうまでもない。

(4) 医療コミュニケーション学分野

本分野では，患者，医師，看護師，医療技術者等と接する機会の多い医療現場のあらゆる部署での業務に従事することが期待される。また医療従事者のストレスの増大が問題になっており，ストレスマネジメントも必要である。このような知識と技術を持ち，患者の苦情処理や相談業務あるいは医療スタッフ内部の調整役がこなせる人材が今後必要になると考えられる。この分野は，これまでの教育体系が確立されていない分野であり，修了者はパイオニアとして活躍することが期待される。

7. 授業科目の講義内容

(1) 医療学基礎科目群

授 業 科 目	講 義 等 の 内 容
医 学 概 論	医学・医療をさまざまな視点から学び、自ら医学・医療を考えることができるようにする。
分 子 医 学 概 論	ヒトを構成する最小単位である分子の構造と機能から人体の機能を考察する。特に急速に進行するゲノム解析を含む遺伝学，免疫学，生理学等の最新の動向について，事例検討を中心に講義し，現代の医学の課題について討論する。
内 科 学	患者受診から診断・治療にいたるプロセスについて講義する。内科診療にて頻度の高い症候を手がかりに，病歴聴取・身体所見・臨床検査を診療録に記載し問題点の抽出を行う過程を，事例検討を交えて行う。
外 科 学	外科学を中心とした治療学を，医師，医療技術者，患者・家族の関係を含めた医療プロセスについて，事例検討を中心に演習方式（実地見学を含む）により行う。

(2) 共通基礎科目群

授 業 科 目	講 義 等 の 内 容
医 療 保 障 法	法の概念整理を行った上で、実際の厚生行政における政策立案や実施における医療保障法の考え方を学ぶことを基本的姿勢とする。具体的には、医療提供体制に関する法、医療保障費に関する法、医療施設、医療関係者と患者に関する法などを、事例を通して講義する。
疫 学	予防医学、医療判断学の中核的学問体系である疫学の理論と方法について、疾病量の指標、記述疫学的方法論、分析疫学的方法論、因果関係の判定法等について講義するとともに、事例に基づき問題解決型の学習を行う。
医 学 統 計 学	公衆衛生学及び医療で用いられる基本的な統計処理に必要な適正な標本の収集とデータ解析、検定推定の基礎理論、人口統計学、保健統計学等について講義と演習を組み合わせ授業を行う。
医 療 情 報 学	医療供給体系の再編と医療供給体系の創造をコンピュータシステムによって行う。システム工学・コンピュータ学・経済学・社会学など多彩な科学技術の結晶により、変動を受ける社会の医療ニーズとその問題点を理解する。
社 会 医 学	(概要) 自然及び社会環境がヒト集団の健康に与える各種要因を分析、理解し、ヒトの健康増進。病気の予防に役立つ対策を立案する社会医学的研究方法を講義し、問題解決型グループ学習により社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されることを理解する。 (オムニバス方式) ・自然及び社会的環境がヒトの集団の健康に与える健康障害の発生要因、影響評価を分析し理解する。 ・社会医学の研究成果が犯罪学、法廷人類遺伝学（DNA分析）等により社会利益として反映されていることを理解する。
医 療 行 政 学	医療行政の施策は合理的かつ効率的であることが必要で、医療政策の策定や変更は合理的な根拠（evidence）に基づいて行われなければならない。 本コースでは、(1) プログラム評価の考え方を具体的事例を通して理解すること、および(2) 医療行政の指標を設定することの必要性や困難さを理解すること、を目標とする。

(3) 必修専門科目群

授 業 科 目	講 義 等 の 内 容
医 療 政 策 学	医療政策学では、資源に限りがあることを前提とし、公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ。医療制度としては、医療法、健康保険制度、診療報酬制度、介護保険制度、保健政策、医療制度の国際比較を、技術としては、医療政策を評価する技術、医療の経済学的分析方法を講義する。
医 療 財 政 学	国、地方自治体及び保険者の財政構造及び医療提供上の財政的諸問題について、財政学・経済学の視点を踏まえて講義する。また、資源配分効率性を検証するための費用対効果分析の手法を修得する。
医 療 経 営 学	経営学において発達してきた理論的、実証的な分析手法を医療機関経営に適用・応用した講義を行うとともに、わが国の現実の医療機関経営のケース・スタディを行うことにより、医療機関経営についての実践的な知見を深める。
医 療 管 理 学	「管理」に関する体系的な知識を修得するとともに、医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める。また特に「質の管理」と「安全管理」に関する知識と理解を深め、その具体的な実践の手法を修得する。
医療コミュニケーション学I	医療の場におけるコミュニケーションの特徴・種類、関連要因、医療コミュニケーションと医療の質との関係、コミュニケーションの医療管理において果たす役割、より相手に的確に伝えるためのコミュニケーション技法について講義及び事例研究を行う。
演 習 I , II	医療経営・管理に関する卒業成果物を作成するために必要な講義及び研究指導を行う。

(4) 選択専門科目群

授 業 科 目	講 義 等 の 内 容
医 療 人 事 管 理 論	労務管理、人事考課、賃金管理及び雇用管理について、労働法、経営学および医療コミュニケーション学の立場から教授する。医療現場の雇用管理について事例に則して問題解決型のグループ学習を行う。
医療コミュニケーション学Ⅱ	医療の分野におけるマスコミの果たす役割は、他の分野に比べはるかに大きいものがある。医療技術の導入・普及から医療事故、薬害、医療施策の衆知に至るまで、マスコミュニケーションの果たす役割について講義及び事例研究を行う。
薬 事 情 報 学	国際的なネットワークを通じ薬事情報を収集するとともに、医薬品情報や薬物体内動態解析に基づき薬物療法を最適化し、医療現場に適切な薬事情報のフィードバックを行うなど、講義及び演習を通じて医薬品の開発過程や臨床現場での使用により発生する薬事情報の収集・解析・提供を学ぶ。
医 療 オ ー ガ ナ イ ズ 論	医療を成立させることは簡単ではない。医療者と患者の利害は一致しないことが多いし、医療従事者同士の利害も一致しないことも少なくないからである。医療スタッフと患者との共同作業で成立する医療をオーガナイズするためには、根拠に基づいた測定、推計、設計に加えて、社会的な価値の共有とか合意といった哲学や倫理的な問題も考慮されなければならない。EBM、因果関係論、医療判断学、健康の概念、健康政策、患者の支援、生命倫理学などを取り上げる。
病 院 管 理 論	特色ある取り組みを行っている現場や卓越した実績を上げている現場の実務者を迎えた講義ならびにディスカッションを通して、現場の職業人に必要な現実的な問題解決の知識と技術を修得する。
医 療 訴 訟 論	医療過誤発生の構造、医療過誤判例の法理、訴訟法等医療過誤と法的責任を中心に、訴訟当事者間の関係、訴訟の要因となる医療現場の問題点等について事例を中心に講義及びグループ討議を行う。
医療マーケティング論	医療マーケティング論では、医療サービス提供者が、患者のニーズ（ある充足状況が奪われている状態）やウォンツ（ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求）を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ。
医 療 財 務 管 理 論	様々な医療制度改革を背景に、経営状態を計数的に把握する重要性が増してきている。財務諸表から得られる財務情報と医事統計データ等の非財務情報をもとに経営分析を行い、主として資金管理の観点から経営管理上の問題解決ができるよう知識と技術を修得する。

授 業 科 目	講 義 等 の 内 容
医 療 の 質 概 論	医療の提供を最適化するために「医療の質」とは何かを考察する。医療を取り巻く環境の変化に対応し、ストラクチャー、プロセス、アウトカムの面から質を多角的に測定、評価し、質を改善する方策について学習する。
疾 病 管 理 学	患者、地域、社会における疾病管理の意義とその概要を学習する。疾病発症の背景、機序を理解し、モニタリング、心理学的介入、行動変容等を通じて医学的管理を組織的に行う体系について考える。
ケアコミュニケーション論	医療のあらゆる場面において必要なコミュニケーションについて理解を深め、ケアコミュニケーション能力について考える。相手の心理、意図を洞察し、目的や状況に応じて、言語的および非言語的コミュニケーションを適切に使用する技術を学ぶ。
医 療 人 間 学	患者－家族－医療従事者などで構成されるチーム医療の現場における総合的な諸問題や、組織としての病院における経営や管理などに関する多様な問題を論ずるための、哲学や倫理学、人間学に根ざした、医療の基礎に横たわる考え方を学ぶ。
インフォームド・コンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ロールプレイ、個人またはグループによる考察や討論を通してICをとることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。
衛 生 学	人間の健康は環境によって影響を受ける。衛生学では主に生物学的要因、化学的な要因、物理的な要因を取り扱うが、これらの要因の健康への影響と対策を学ぶ。
(特別選択科目Ⅱ) 医 療 安 全 管 理 論	近年の医療の現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯ならびに動向を理解し、その具体的な取り組みに必要な知識と技術を修得するとともに、取り組みの問題点ならびに今後の課題について検討する。

(5) 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻修士課程（専門職大学院）研究分野指導教員及び担当授業科目

[illegible]

職名・指導教員氏名	担 当 授 業 料 目 名
九州大学 医学研究院 教 授 イケ ダ ノリ アキ 池 田 典 昭	・ 社会医学
九州大学 医学研究院 講 師 ク ドウ ケイ コ 工 藤 恵 子	・ 社会医学
九州大学 医学研究院 助 教 ツジ アキ コ 辻 彰 子	・ 社会医学
九州大学 医学研究院 教 授 マエ ハラ ヨシ ヒコ 前 原 喜 彦	・ 外科学
九州大学 医学研究院 教 授 キヨ ハラ ユタカ 清 原 裕	・ 衛生学
九州大学 医学研究院 講 師 タ ナカ アキ ヨ 田 中 昭 代	・ 衛生学
九州大学 医学研究院 助 教 ヒラ タ ミ ユ キ 平 田 美 由 紀	・ 衛生学
九州大学 医学研究院 教 授 ヨシ ダ モト フミ 吉 田 素 文	・ インフォームド・コンセント
九州大学 医学研究院 助 教 キク カワ マコト 菊 川 誠	・ インフォームド・コンセント

職名・指導教員氏名	担 当 授 業 料 目 名
九州大学 病院 准教授 ナカ シマ ナオ キ 中 島 直 樹	・ 医療情報学
九州大学 薬学研究院 教 授 イエ イリ イチ ロウ 家 入 一 郎	・ 薬事情報学
九州大学 薬学研究院 准教授 クボ タ トシ オ 窪 田 敏 夫	・ 薬事情報学
九州大学 法学研究院 教 授 イ ソ ガワ ナオ ユキ 五十川 直 行	・ 医療訴訟法
地域健康文化学研究所 研究所長 アラ キ マサ ミ 荒 木 正 見	・ 医療人間学
公立大学法人福岡女子大学 教 授 ヨシ ムラ タケ スミ 吉 村 健 清	・ 疫学
産業医科大学 公衆衛生学教室 講 師 ク ボ タツ ヒコ 久 保 達 彦	・ 疫学
保健医療経営大学 教 授 サカイ タカ アキ 堺 孝 明	・ 医療財務管理論
熊本学園大学 商学部 准教授 イケ ガミ キョウ コ 池 上 恭 子	・ 医療財務管理論

8. 授業科目の講義内容

(1) 医療学基礎科目群

授 業 科 目 名	医療学基礎科目群（医学概論）		
講 義 題 目	医学・医療をさまざまな視点から学び、自ら医学・医療を考える		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	馬場園 明, 萩 原 明 人, 鴨 打 正 浩, 鮎 澤 純 子, 福 田 治 久		
授 業 の 概 要	1. 目標 さまざまな視点から、医療について議論できるようになる。 2. 内容 1) 総論：馬場園明（4/10） 医療の使命について歴史的な視点から考える 2) 因果関係の視点から：馬場園明（4/17） 医療を倫理的な立場から考える 3) 法的な視点から：萩原明人（4/24） 医療を権利としての視点から考える 4) 患者の立場から：萩原明人（5/8） 医療を患者の立場から考える 5) 医療管理の立場から：鮎澤純子（5/15） 医療の使命を医療管理に組み入れていく視点から考える 6) 医療経営の立場から：福田治久（5/22） 良い医療を届けることと採算をとることのバランスを考える 7) 医師の立場から：鴨打正浩（5/29） 医療を医師の立場から考える 8) 医療のあるべき姿：鴨打正浩（6/5） あるべき姿から医療を考える 9) 試験（6/12）		
授業のすすめ方	講義形式である。		
教 科 書 及 び 参 考 書	授業時に渡すレジュメに記す。		
OFFICE HOUR	いつでも		
試験・成績評価	・出席：50% ・試験：各担当が1問ずつ出題50%		

授 業 科 目 名	医療学基礎科目群（分子医学概論）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	住 本 英 樹		
授 業 の 概 要	I. 一般目標（GIO） ヒトの健康の仕組みと病気の成り立ちを分子のレベルで理解する。 II. 個別行動目標（SBO） 1. 遺伝子病とタンパク質の構造（住本教授） 1) DNAからRNAを経て蛋白合成に至る分子機構を理解し説明できる。 2) 単一遺伝子病の原理を理解し説明できる。 3) タンパク質の構造と遺伝病の関連を理解し説明できる。 2. 微生物と感染症（柳教授） 1) 微生物の種類と性質の違いを説明できる。 2) 微生物の感染の機構を説明できる。 3) 感染症の発症機構を説明できる。 3. 骨代謝と骨粗鬆症（高柳教授） 1) 骨芽細胞と破骨細胞のカップリングによる骨組織の新陳代謝を学習し骨のリモデリングについて理解し、説明できる。 2) 骨粗鬆症の発症機構を学習しその予防と治療について理解し、説明できる。 3) 我が国の高齢社会において老年病の代表である骨粗鬆症の予防の意義を医療財政、長寿社会のQOLの面から理解し、説明できる。 4. 視覚の神経回路（大木教授） 1) アレルギー反応、アナフィラキシーの発症機序を理解し、説明できる。 2) 発症の複数のステップに対応する治療方針を考察し、説明できる。 3) 現時点で治療薬の存在しない発症のステップに関して、どのように研究を展開し、新規治療法の開発にアプローチすべきか、を考察できる。 5. 人体発生と発生原理（目野教授） 1) 初期発生の概要を説明できる。 2) 器官形成について説明できる。 3) 個体発生を可能にする発生原理について説明できる。 6. 遺伝子と放射線（續教授） 1) 放射線によるDNA傷害と突然変異の関係について理解し、説明できる。 2) DNA傷害とその修復の分子機構を理解し、説明できる。 3) 放射線の生物影響としての放射線傷害について理解し、説明できる。 4) 医学・医療における放射線の利用について理解し、説明できる。 7. ミトコンドリア病（康教授） 1) ミトコンドリアの機能を理解し説明できる。 2) ミトコンドリア病とミトコンドリアDNAの関係を理解し説明できる。 3) 活性酸素とミトコンドリア病の関係について理解し説明できる。		

授業のすすめ方	生化学，生理学，分子生物学，遺伝学，病理学など多面的分野から，最新医学の現状について代表的疾患を例に分子レベルで講義する。
教科書及び参考書	「感染症広がり方と防ぎ方」井上栄 中公新書 「医学は何ができるか」ルイス・トマス 晶文社 「ストライヤー生化学」入村達郎・他監訳 東京化学同人 「放射線と健康」館野之男 岩波新書
OFFICE HOUR	特に設定しないが，随時質問・相談に応じる。
試験・成績評価	・予習（授業内容の把握，問題意識のレベル）：20% ・授業参加（積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力）：50% ・学期末レポート：30% <u>但し，担当教官が講義当日に明示する個別方針に従うこと。</u>

授 業 科 目 名	医療学基礎科目群（内科学 病態制御学Ⅴ－①②）						
講 義 題 目	アレルギー・膠原病・感染症概論						
開 講 学 期	1 年次 前期			単位数	1		
担 当 教 員	赤 司 浩 一（世話人）						
授 業 の 概 要	一般学習目標：①膠原病・アレルギーの臨床と病態を理解する。 ②感染症・中毒について、その臨床と病態を理解する。 実施時間 金曜日 2 時限または木曜日 2 時限 場 所 基礎研究 A 棟第 2 講義室 または 基礎研究 B 棟講義室						
	回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所
	1	4/19	金	2	中毒 中毒物質を理解し、中毒症の診断および治療を理解する。 ①中毒症の予防対策および診断・治療を理解する。 ②胎内感染の病態の特徴を理解する。 ③中毒症に対する特殊療法を理解する。	鶴屋 和彦 包括的腎不全治療学 内線 5843 tsuruya@intmed2.med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究 B 棟
	2	4/26	金	2	アレルギー総論 ①アレルギー反応に関与する細胞について理解する。 ②アレルギーの検査法について説明できる。 ③アレルギーの治療法について説明できる。	須藤 信行 心身医学 内線 5316	
	3	5/9	木	2	ウイルス感染症 ウイルスによる感染症の発症機序、疫学、診断と治療、予防を学習する。 ①中枢神経ウイルス感染症、呼吸器ウイルス感染症、消化器系ウイルス感染症、発疹性ウイルス感染症の診断および治療を理解する。 ②肝炎ウイルス感染症の診断および治療を理解する。 ③ヒト免疫性不全ウイルス感染症の診断および治療を理解する。	古庄 憲浩 総合診療科 内線 5909 furusyo@gim.med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究 A 棟
	4	5/10	金	2	アレルギー各論 ①アレルギーの各疾患について病態を説明できる。 ②気管支喘息の型、重症度について理解する ③気管支喘息の治療ガイドラインについて理解する。	須藤 信行 心身医学 内線 5316	基礎研究 B 棟

	5	5/17	金	2	膠原病総論 ①自己免疫疾患の発症の機序を理解する。 ②膠原病の分類を説明できる。 ③膠原病の検査について理解する。	堀内 孝彦 病態修復内科学 内線 5233 horiuchi@intmed1.med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究A棟
	6	5/23	木	2	細菌・真菌感染症 細菌による感染症の発症機序，疫学，診断と治療，予防等を学習する。 ①種々の細菌感染症の診断および治療を理解する。（大腸菌，赤痢菌，腸チフス菌，緑膿菌また，クレブシラ菌，ブドウ球菌，連鎖球菌，肺炎球菌など） ②真菌，原虫，寄生虫による感染症の診断および予防を理解する。	村田 昌之 総合診療科 内線 5909 mmurata@genmedpr.med.kyushu-u.ac.jp	
	7	5/31	金	2	膠原病各論 ①関節リウマチの検査，診断について理解する。 ②関節リウマチの治療について説明できる。 ③全身性エリテマトーデスの検査，診断について理解する。 ④全身性エリテマトーデスの治療について説明できる。	塚本 浩 病態修復内科学 内線 5233 tsukamot@intmed1.med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究B棟
授業のすすめ方	講義形式である。						
教科書及び参考書							
OFFICE HOUR							
試験・成績評価	レポートによる。						

授 業 科 目 名	医療学基礎科目群（内科学 病態制御学Ⅴ－③）																																								
講 義 題 目	心身医学・精神医学概論																																								
開 講 学 期	1 年次 前期				単位数	1																																			
担 当 教 員	須 藤 信 行（世話人）																																								
授 業 の 概 要	一般学習目標：③心身医学・精神医学について、その臨床と病態を理解する。 実施時間 水曜日 1 時限または金曜日 1 時限 場 所 基礎研究A棟第2 講義室 または 基礎研究B 棟講義室 <table><tr><th>回数</th><th>月日</th><th>曜日</th><th>時限</th><th>テーマ</th><th>担当教員</th><th>場所</th></tr><tr><td>1</td><td>6/5</td><td>水</td><td>1</td><td>精神医学総論 ①精神疾患の概念について理解する。 ②精神疾患の分類と診断について理解する。 ③精神疾患の治療について理解する。</td><td>神庭 重信 精神病態医学 内線 5620 skanba@npsych. med.kyushu-u.ac.jp</td><td rowspan="2">基礎研究B棟</td></tr><tr><td>2</td><td>6/7</td><td>金</td><td>1</td><td>精神疾患の薬物療法 ①向精神薬概論について理解する。 ②統合失調症とその治療について理解する。 ③気分障害とその治療について理解する。 ④不安障害とその治療について理解する。 ⑤睡眠障害とその治療について理解する。</td><td>鬼塚 俊明 精神病態医学 内線 5625 toshiaki@npsych. med.kyushu-u.ac.jp</td></tr><tr><td>3</td><td>6/12</td><td>水</td><td>1</td><td>心身相関の機序 ①学習理論、条件反射、オペラント条件づけについて説明できる。 ②ストレスと神経・内分泌・免疫反応について説明できる。 ③ストレスと各臓器の反応について理解する。</td><td>岡 孝和 心身医学 内線 5317 oka-t@cephal. med.kyushu-u.ac.jp</td><td>基礎研究A棟</td></tr><tr><td>4</td><td>6/14</td><td>金</td><td>1</td><td>認知症の概念・分類・診断・治療 ①認知症の概念について理解する。 ②認知症の分類と診断について理解する。 ③認知症の治療について理解する。</td><td>門司 晃 精神医学 内線 2345 amonji@npsych. med.kyushu-ac.jp</td><td>基礎研究B棟</td></tr></table>							回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所	1	6/5	水	1	精神医学総論 ①精神疾患の概念について理解する。 ②精神疾患の分類と診断について理解する。 ③精神疾患の治療について理解する。	神庭 重信 精神病態医学 内線 5620 skanba@npsych. med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究B棟	2	6/7	金	1	精神疾患の薬物療法 ①向精神薬概論について理解する。 ②統合失調症とその治療について理解する。 ③気分障害とその治療について理解する。 ④不安障害とその治療について理解する。 ⑤睡眠障害とその治療について理解する。	鬼塚 俊明 精神病態医学 内線 5625 toshiaki@npsych. med.kyushu-u.ac.jp	3	6/12	水	1	心身相関の機序 ①学習理論、条件反射、オペラント条件づけについて説明できる。 ②ストレスと神経・内分泌・免疫反応について説明できる。 ③ストレスと各臓器の反応について理解する。	岡 孝和 心身医学 内線 5317 oka-t@cephal. med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究A棟	4	6/14	金	1	認知症の概念・分類・診断・治療 ①認知症の概念について理解する。 ②認知症の分類と診断について理解する。 ③認知症の治療について理解する。	門司 晃 精神医学 内線 2345 amonji@npsych. med.kyushu-ac.jp	基礎研究B棟
回数	月日	曜日	時限	テーマ	担当教員	場所																																			
1	6/5	水	1	精神医学総論 ①精神疾患の概念について理解する。 ②精神疾患の分類と診断について理解する。 ③精神疾患の治療について理解する。	神庭 重信 精神病態医学 内線 5620 skanba@npsych. med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究B棟																																			
2	6/7	金	1	精神疾患の薬物療法 ①向精神薬概論について理解する。 ②統合失調症とその治療について理解する。 ③気分障害とその治療について理解する。 ④不安障害とその治療について理解する。 ⑤睡眠障害とその治療について理解する。	鬼塚 俊明 精神病態医学 内線 5625 toshiaki@npsych. med.kyushu-u.ac.jp																																				
3	6/12	水	1	心身相関の機序 ①学習理論、条件反射、オペラント条件づけについて説明できる。 ②ストレスと神経・内分泌・免疫反応について説明できる。 ③ストレスと各臓器の反応について理解する。	岡 孝和 心身医学 内線 5317 oka-t@cephal. med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究A棟																																			
4	6/14	金	1	認知症の概念・分類・診断・治療 ①認知症の概念について理解する。 ②認知症の分類と診断について理解する。 ③認知症の治療について理解する。	門司 晃 精神医学 内線 2345 amonji@npsych. med.kyushu-ac.jp	基礎研究B棟																																			

	5	6/19	水	1	精神疾患の分子遺伝学 ①精神疾患の遺伝学概論について理解する。 ②分子遺伝学概論について理解する。 ③統合失調症の分子遺伝学について理解する。 ④気分障害の分子遺伝学について理解する。	川寄 弘詔 精神病態医学 内線 5621 hiroakik@npsych.med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究B棟
	6	6/21	金	1	心身医学総論 ①心身医学の歴史、現状について理解する。 ②心身症の定義を説明できる。 ③心身両面からの診断について説明できる。 ④心身医学的治療について理解する。	須藤 信行 心身医学 内線 5316 nobuyuki@med.kyushu-u.ac.jp	基礎研究A棟
	7	6/26	水	1	心身医学的治療 ①向精神薬について説明できる。 ②心理療法について理解する。 ③摂食障害の診断、治療法について理解する。	河合 啓介 心身医学 内線 5319 kawai@cephal.med.kyushu-u.ac.jp	
授業のすすめ方	講義形式である。						
教科書及び参考書							
OFFICE HOUR							
試験・成績評価	レポートによる。						

授 業 科 目 名	医療学基礎科目群（外科学）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	前 原 喜 彦		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標（GIO） 1) 外科療学の概要を理解する。 2) 外科治療と医療従事者，患者，家族との関係を理解する。 3) 外科学治療と医療制度，社会制度との関係を理解する。 II. 個別行動目標（SBO） 1) 外科学治療の概要 1. 患者が入院して外科治療を受け，退院するまでのプロセスを経時的に説明できる。 2. 外科治療のプロセスに必要な種々のリソースを列記し説明できる。 3. 外科学治療におけるトラブルについて列記し，対策を述べることができる。 2) 外科学治療と医療従事者，患者，家族との関係 1. 外科学治療に関わる医療従事者，患者，家族関係を列記する。 2. 外科学治療と医療従事者，患者，家族と間に発生するトラブルを列記し，対策を述べることができる。 3) 外科学治療と医療制度，社会制度との関係 1. 外科学治療に対して医療制度，社会制度が提供するリソースを挙げる。 2. 外科学治療において発生する医療制度，社会制度上のトラブルを列記し，対策を述べることができる。 3. 外科学治療で，今後新たに必要となる医療制度，社会制度について列記し，説明できる。		
授業のすすめ方	症例が病院を訪れて外科治療を受ける事例を中心に，外科学治療と医療経営・管理の関与を学習する。		
教 科 書 及 び 参 考 書	国民衛生の動向（財）厚生統計協会刊行		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	・レポート：100%		

(2) 共通基礎科目群

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（医療保障法）		
講 義 題 目	医療保障法		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	福 田 治 久		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標 1) 法の体系や概念を説明できる。 2) 医療保障法の特性を説明できる。 3) 医療保障制度について、その概念と法令を説明できる。 4) 医療保障制度における具体的事例に対して、考えをまとめることができる。 II. 個別行動目標 1. 健康権を理解する。 2. 国際的視点にたった医療保障法の概念を理解する。 3. 我が国の法体系における医療保障法の位置付けを理解する。 4. 個別医療保障法について具体的な概念を含め、基本的な知識を得る。 (1) 医療提供体制に関する法 (2) 医療保障費に関する法 (3) 医療機関、医療関係者、患者に関する法 5. 抽象的議論よりも実際の政策立案、規範的枠組みの中で医療保障法を理解し、説明できるになる。 6. 医療サービスの提供、医療保健制度を通じた医療費の公的保障、医療における個人情報などをめぐる現代的な課題について、法的観点から議論する力を身につける。 III. 授業予定 ① 医療保障法の体系と構造 ② 医療保険法の現状と課題 ③ 医療保障と平等 ④ 物理的・経済的アクセス可能性 ⑤ 情報アクセス可能性 ⑥ 受容可能性・参加 ⑦ 医療の質 ⑧ 米国医療と医療保障法 ⑨ 医療保障の法的構造 (1) ⑩ 医療保障の法的構造 (2) ⑪ ナショナル・ミニマム ⑫ 介護保障法の体系と構造 ⑬ 介護保険給付の実態と課題 ⑭ 介護提供体制の組織と構造 ⑮ 医療保障法・介護保障法の展望		

授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	特に設定しないが、教員が他の用務で抜けられない時以外は、原則として、質問・相談等に応じる。
試験・成績評価	● 積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力（レポート等を含む）：50% ● 試験：50%

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（疫学）		
講 義 題 目	疫 学		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	吉 村 健 清, 久 保 達 彦		
授 業 の 概 要	1. 一般学習目標（GIO） 1）本専攻分野における疫学の役割を理解する。 2）保健・医療科学分野で疫学の考え方を理解する。 3）必要に応じて、疫学的手法を応用できる。 2. 個別行動目標（SBO） 1）疫学の考え方を具体的事例をもとに学習する。 2）疫学の3つの役割（①保健・医療事象の実態を明らかにし、行動指針の基礎情報を得る。②事象に関わる要因を明らかにする。③保健・医療分野の介入に対する評価を行なう）を具体的に理解する。 3. 保健医療事象の実態を明らかにするための記述疫学的手法を学ぶ。 4. 保健医療情報を評価・検討できる能力を養う。 5. 保健医療事象にかかわる要因を明らかにする分析疫学的手法を具体的事例をもとに理解する。 6. 分析疫学的手法に基づく情報を評価・検討できる能力を養う。 7. 保健・医療分野での各種介入プログラムを評価することの重要性を学ぶ。 8. 保健・医療分野で必要とされる知見を得るための疫学的研究計画の立案の重要性を学ぶ。 9. 調査関係者の協力を得るために必要な考え方・手順を学ぶ。 上記、個別目標達成（SBO）のため、各講義の課題を下記に示す。 1. 疫学概論 2. 疾病頻度 3. 記述疫学 4. 標準化 5. 断面調査 6. コホート研究 7. 症例対照研究 8. 介入研究 9. 因果関係論 10. 偏り 11. 交絡因子 12. スクリーニング 13. EBM 14. 疫学研究企画（1） 15. 疫学研究企画（2）		

授業のすすめ方	各講義時間で、事前に配布した資料等に基づき質疑、討論を行い、さらに具体的疫学事例を用いて理解を深める形態をとる。
教科書及び参考書	「WHOの基礎疫学」木原雅子/木原正博（訳） Rothman, K. Epidemiology Oxford Uni. Press, 2002 重松・柳川（監），新しい疫学 日本公衆衛生協会，1991
OFFICE HOUR	特に設定できないが，質問に応じて対応する。
試験・成績評価	講義での参加状況と試験及びレポートにより評価する。

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（医学統計学）				
講 義 題 目					
開 講 学 期	1 年次 前期			単位数	2
担 当 教 員	講義及び演習：清 原 千香子（予防医学分野）				
授 業 の 概 要	実施時間：火曜日 I 時限（8:40－10:10）、Ⅱ時限（10:30－12:00） 場 所：総合研究棟 2F ITルーム 実施方法				
	1）講義：医学研究で汎用される統計解析の理論と手法を教授する。 2）演習：論文を正しく評価できる能力と論文作成時に必要な統計学的能力を教授する。				
	指定された英文論文を各自コピーし、あらかじめ読んでおく。				
	回数	月日	時限		題目と学習目標
	1	4/16	I	講義	統計学の基本 ①定値の尺度と分布，②代表値とバラツキ，③推定値と誤差，④母集団と標本について関連用語の意味と意義を説明できる
2	4/16	Ⅱ	演習	応用統計学：疫学論文における基本的な統計量の解釈を適切に行うことができる Grimes DA, Schulz KF. An overview of clinical research: the lay of the land. Lancet 2002; 359(9300): 57-61.	
3	4/23	I	講義	2群の平均値と割合の比較:t－検定とχ^2－検定 ①unpaired t-testとpaired t-testの違いと方法，②統計学的検定と推定の概念，③2x2分割表の解析方法	
4	4/23	Ⅱ	演習	応用統計学：疫学論文における基本特性の比較についての解釈を適切に行うことができる Furukawa M, Kiyohara C et al. Prevalence of and risk factors for low bone mineral density in Japanese female patients with systemic lupus erythematosus. Rheumatol Int 2011; 31: 365-76.	
5	5/7	I	講義	分散分析 ①3 群以上の平均値の比較（一元配置分散分析）と②同一人に3 種類以上の測定値がある場合（二元配置分散分析）の統計解析の方法を説明でき，③分散分析の前提条件を説明できる	
6	5/7	Ⅱ	演習	応用統計学：疫学論文における分散分析の結果の解釈を適切に行うことができる Kiyohara C, Hirohata T. Environmental factors and aryl hydrocarbon hydroxylase activity (CYP1A1 phenotype) in human lymphocytes. J Epidemiol 1997; 7: 244-50.	
7	5/14	I	講義	正規分布しない測定値の統計解析 ①対数変換の有用性を説明できる ②測定値の性質に対応したノン・パラメトリック手法を説明できる	

	8	5/14	II	演習	応用統計学：疫学論文におけるノン・パラメトリック検定された結果の解釈を適切に行うことができる Songjinda P, Kiyohara C et al. Differences in developing intestinal microbiota between allergic and non-allergic infants: a pilot study in Japan. Biosci Biotechnol Biochem 2007; 71: 2338-42.
	9	5/21	I	講義	回帰分析 ①単相関分析と直線回帰分析の関連用語を説明できる ②多重線形回帰分析の方法を説明できる
	10	5/21	II	演習	応用統計学：疫学論文の回帰分析の結果の解釈を適切に行うことができる Kitamura Y, Kiyohara C et al. Relationship of alcohol use, physical activity and dietary habits with serum carotenoids, retinol and alpha-tocopherol among male Japanese smokers. Int J Epidemiol 1997; 26: 307-14.
	11	5/28	I	講義	Logistic regression modelとCox proportional hazards model ①上記モデルからオッズ比と相対危険を推定できる ②人年の概念を説明できる
	12	5/28	II	演習	応用統計学：疫学論文におけるオッズ比や相対危険度に関する結果の解釈を適切に行うことができる Fukushima W, Kiyohara C et al. Alcohol drinking and risk of Parkinson's disease: a case-control study in Japan. BMC Neurol. 2010; 10: 111.
	13	6/4	I	講義	総括講義 1 ：医学統計学の習熟度を高める
	14	6/4	II	演習	総括演習 ①種々のタイプの描く医学論文において、種々の指標で示された結果を適切に解釈できる Kiyohara C, Kusuha S. Cigarette smoking and Parkinson's disease: a meta-analysis. Fukuoka Igaku Zasshi 2011; 102(8): 254-65.
	15	6/11	I	講義	総括講義 2 ：応用医学統計学の習熟度を高める
	16	6/11	II		試験
授業のすすめ方	講義と疫学論文における統計の解釈の仕方についての演習				
教科書及び参考書	バイオサイエンスの統計学（南江堂，市原清志 著） ハーバード大学講義テキスト 生物統計学入門（丸善株式会社，Marcello Pagano/Kimberlee Gauvreau著，竹内正弘 監訳）				
OFFICE HOUR	12:00～18:00				
試験・成績評価	最終試験100%				

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（医療情報学）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	1
担 当 教 員	中 島 直 樹		
授 業 の 概 要	・ 医療分野における問題点の発見能力および問題解決能力としての医療情報学を、具体例を通して理解する。 ・ 近未来の医療ニーズに応える医療を提供するための手段として、医療情報が重要となることを理解する。 I. 一般学習目標（GIO） ・ 医療に対する社会ニーズを満たすために医療情報が活躍することを求められている社会情勢を知る。 ・ 問題解決の成功例を通して具体的な問題解決の手法を理解する。 II. 個別行動目標（SBO） 1. 医療ニーズの時代変遷と医療情報学への期待 2. 医療サービス効率向上 3. 医療精度向上 4. 医療水準向上 5. 医療サービス体系の再編：インターネット，電子病歴 6. 情報セキュリティ，個人情報保護 7. 誤り易い医療データ収集の落とし穴：バイアス 8. 要約統計量* 9. 単変量解析(検定と推定)* 10. 単変量回帰と多重回帰* 11. 交絡因子の統計学的調整と交互作用* 12. オッズ比と相対危険 13. 多重ロジスティック回帰分析 14. 多重Cox 比例ハザードモデル *統計解析ソフト JMP を用いて医療データの統計解析を行う。		
授業のすすめ方	・ 講義，統計解析		
教 科 書 及 び 参 考 書	＜参考書＞ 日本医療情報学会編教科書シリーズ（医典社）		
OFFICE HOUR	月曜日17:00～18:00		
試験・成績評価	出席回数，受講態度，演習回答の内容などにより総合的に評価する。		

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（社会医学）		
講 義 題 目	社会医学概論		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	池 田 典 昭		
授 業 の 概 要	医療の現場において死がどのように扱われているか学習するために、まず死とは何かをその現象から理解し、その判定が必ずしも容易でない場合もあることを理解する。 社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されていることを理解する。 ・社会医学における中毒学 医療の中での中毒学の特徴、殊性について理解する。 ・社会医学における法医病理学 死とは何か、体死と細胞死について理解する。 突然死について理解する。 ・社会医学における血清学 DNA多型について理解し、その社会医学的応用について解説する。 ・社会医学における病院の役割 乳幼児の虐待について社会医学の面から解説する。 救急現場で必要な社会医学的知識について理解する。 1) 一般学習目標（GIO） 医療の現場において死がどのように扱われているか学習するために講義終了時に以下の3項目を理解する。 ① 死とは何かをその現象から理解し、死の判定が必ずしも容易でない場合もあることを理解する。 ② 社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されていることを理解する。 ③ 医療事故・医療過誤・医事訴訟には様々なとらえ方があることを理解する。 2) 個別行動目標（SBO） ① 社会医学における法医病理学 死とは何か、体死と細胞死について理解する。 突然死について理解する。 ② 社会医学における中毒学 医療の中での中毒学の特徴、殊性について理解する。 ③ 社会医学における血清学 DNA多型について理解し、その社会医学的応用について理解する。 ④ 社会医学における病院の役割 乳幼児の虐待について社会医学の面から理解する。 救急現場で必要な社会医学的知識について理解する。 ⑤ 社会医学における医療事故 医療事故に対して法律家、弁護士、医学者でとらえ方が違うことを理解する。		

授業のすすめ方	講義
教科書及び 参考書	その都度指示する。
OFFICE HOUR	
試験・成績評価	試験

授 業 科 目 名	共通基礎科目群（医療行政学）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	萩 原 明 人		
授 業 の 概 要	1) 一般学習目標 保健事業等の評価（プログラム評価）の基本的な方法，および，医療資源の配分方法に関する考え方が理解できる。 2) 個別学習目標 (1) プログラム評価の考え方を理解する (2) プログラム評価の具体的な事例を検討する (3) 医療行政の指標を設定することの必要性や困難さを理解する (4) 具体的なテーマを設定し，医療政策が国民の健康行動に及ぼす影響をシミュレーションする（課題） 3) 具体的講義内容 1, 2 回 (1) コースの概要説明 (2) 課題の概要説明 (3) プログラム評価の方法 (1) (Goal-attainment model, Goal-free model) 3, 4 回 (1) プログラム評価の方法 (2) (Responsive evaluation model MAUT model) (2) 行政学の基礎（官僚制度，政策形成と政策立案，行政効率）（予備） 5, 6 回 (1) プログラム評価の方法 (3) プログラム評価のケース・スタディー（事例 1, 2） 7, 8 回 (1) プログラム評価の方法 (4) プログラム評価のケース・スタディー（事例 4） (2) 医療行政の指標 (1) 設定の必要性：わが国における臓器移植を例に 9, 10 回 (1) 医療行政の指標 (2) 研究の動向 設定の難しさ：研究の動向 11, 12 回（受講生による課題の発表）(1) 具体的なテーマを設定し，医療政策が国民の健康行動に及ぼす影響をシミュレーションする。 13, 14, 15 回（受講生による課題の発表）(2) 具体的なテーマを設定し，医療政策が国民の健康行動に及ぼす影響をシミュレーションする。		

授業のすすめ方	1～4回目までは、教官が講義形式で授業をすすめる。5回目以降は、関連論文を取り上げ、討論を中心に進める。授業で取り上げる論文は事前に配布するので、受講者は必ず目を通した上で、授業に参加すること。また、積極的に討論に加わることを求められる。英語の文献を多く取り上げるので、十分な予習をすることが求められる。
教科書及び参考書	以下は参考書。 1. EJ Posavac, RG Carey. Program evaluation. Methods and case Prentice Hall, Englewood Cliffs, 1992. 2. W Edwards, JR Newman. Multiattribute evaluation. Sage Publications, Thousand Oaks, 1982.
OFFICE HOUR	常時。
試験・成績評価	論文の内容報告（20%）、論文の要約レポート（40%）、課題（10%）、授業への出席（20%）、授業中の討論（10%）。

(3) 必修専門科目群

授 業 科 目 名	必修専門科目群（医療政策学）		
講 義 題 目	医療政策学		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	馬場園 明		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標 医療政策学では、資源に限りがあることを前提とし、公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ。医療制度としては、医療法、健康保険制度、診療報酬制度、介護保険制度、医療制度の国際比較を、技術としては、医療政策を評価する技術、医療の経済学的分析方法を理解することを目的とする。 II. 個別行動目標 次の質問に答えられる 1) わが国の医療保障の枠組みについて述べよ 2) 保険外併用療養費制度の問題について述べよ 3) 医療制度改革における医療法改正の役割について述べよ 4) 政府は急性期病院の集約化を医療費の支払いによってどのように行おうとしているか 5) 政府は医療の質の担保を診療報酬の仕組みでどのように行おうとしているか 6) わが国の高齢者の医療制度や介護制度の特徴について述べよ 7) ナショナルデータベースを医療の評価にどのように応用できるか 8) 有病率が減少すれば費用効果が悪くなることを証明せよ 9) 高齢者の社会的入院を解決するためにはどうしたら良いか 10) 適切な自己負担とはどのような負担か 11) 米国はなぜ国民皆保険制度を導入できないのか 12) 英国の医療費適正化の方針について述べよ 13) ドイツの医療費適正化の方針について述べよ 14) 病院経営を医療政策とマッチさせていくにはどうしたらいいか 15) フランスの医療費適正化の方針について述べよ III. 講義内容 1) 医療政策と医療制度 (4/9) 2) 健康保険制度と医療制度改革 (4/16) 3) 医療法 (4/23) 4) 医療費の支払い制度 (5/7) 5) 診療報酬の体系 (5/14) 6) 高齢者医療制度と介護保険 (5/21) 7) レセプト・健診データの活用 (5/28) 8) 医療政策とEBM (6/4) 9) 福岡県の高齢者の長期入院が医療費に与える影響 (6/11) 10) 医療サービスの受診保障と患者自己負担 (6/18) 11) 米国の医療改革 (6/25) 12) 英国の医療改革 (7/2) 13) ドイツの医療改革 (7/9) 14) 医療政策と自治体病院の経営 (7/16) 15) フランスの医療改革 (7/23)		

授業のすすめ方	講義は入門編と論文編がある。ガイダンスに従ってキーワードの定義と課題を自分でやっておくこと。
教科書及び参考書	医療政策学テキスト（最初の講義で配布する。）
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	最終試験は、キーワードから20題，課題から2題出題する。 出席点50点，試験50点で採点し，60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	必修専門科目群（医療財政学）		
講 義 題 目	医療財政学		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	福 田 治 久		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 1) 財政学の理論的・実証的な分析手法を学習し、医療財政に対する評価の手法や考え方を理解する。 2) 医療財政に係わる実証研究事例を学習し、エビデンスに基づいた財政戦略を理解する。 3) 医療イノベーションを促進しつつ医療費の適正化を図る分析手法である費用効果分析などの医療経済評価手法を習得する。 II 個別行動目標 ① 財政の役割、財政制度について説明することができる。 ② 医療財政の財源調達システムや経済波及効果を理解し、説明することができる。 ③ 不確実性の経済理論・医療保険制度について学習し、その概要を説明することができる。 ④ 医療財政学からみた医療保険制度の現状と課題及び改革の動向を学習し、その概要を説明することができる。 ⑤ 介護保険制度の制度的な概要について学習し、その概要を説明することができる。 ⑥ 診療報酬の法制度的な仕組み・機能・影響について学習し、その概要を説明することができる。 ⑦ 需要・供給理論および不確実性下における行動理論を学習し、医師誘発需要を定義することができる。 ⑧ 医療費の増加要因や疾病費用を分析・推計するための手法を習得することができる。 ⑨ 医療費助成などの政策の必要性を経済学的に理解し、その影響について説明することができる。 ⑩ OECD SHA手法に基づいた医療費の国際比較を通じて、日本の財政方式の立ち位置の特徴を説明することができる。 ⑪ 医療経済評価の必要性和先進諸国の導入状況について説明することができる。 ⑫ 医療経済評価における費用の測定手法を習得する。 ⑬ 医療経済評価における効果の測定手法を習得する。 ⑭ 医療経済評価におけるモデリング手法を習得する。 ⑮ 医療経済評価の報告事例を批判的に吟味し、研究成果を正しく解釈することができる。		

	Ⅲ 授業計画 ① 財政学概論 ② 医療財政学概論 ③ 医療保険財政 ④ 国民皆保険を巡る諸問題 ⑤ 介護保険財政 ⑥ 診療報酬制度概論 ⑦ 医療需要と医療費 ⑧ 医療費の分析手法 ⑨ 医療費助成の政策評価 ⑩ 医療財政の国際比較 ⑪ 医療経済評価 (1)：概要・先進諸国の導入状況 ⑫ 医療経済評価 (2)：費用の測定 ⑬ 医療経済評価 (3)：効果の測定 ⑭ 医療経済評価 (4)：モデリング ⑮ 医療経済評価 (5)：批判的吟味
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	特に設定しないが、教員が他の用務で抜けられない時以外は、原則として、質問・相談等に応じる。
試験・成績評価	● 積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力（レポート等を含む）：50% ● 試験：50%

授 業 科 目 名	必修専門科目群（医療経営学）		
講 義 題 目	医療経営学		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	福 田 治 久		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 1) 経営学において発達してきた理論・手法を学習し、医療機関経営に適用・応用することができる。 2) 医療経営に係わる研究事例を学習し、科学的エビデンスに基づいた経営のあり方を理解する。 II 個別行動目標 1. 医療経営学入門 (1) 医療機関経営を経営学的にとらえることの意味を理解し、説明することができる。 (2) 医療機関経営の特徴について説明することができる。 2. 経営戦略 全社戦略・事業戦略のそれぞれについて、戦略の計画・実行・評価の手法を理解し、説明することができる。 3. 医療マーケティング マーケティングの意義とプロセスを理解した上で、環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論・手法を説明することができる。 4. 組織マネジメント (1) 組織の存在理由について理解し、戦略との関係性について説明することができる。 (2) 組織文化・安全文化を測定する意義について理解し、測定手法・分析手法を習得することができる。 (3) 代表的な組織構造のモデルについて学習し、メリット・デメリットを説明することができる。 5. 人材マネジメント 人材の評価システム、報酬システム、能力開発システムの基礎理論を理解し、人的資源の適切な管理手法を説明することができる。 6. アカウンティング・ファイナンス (1) 財務管理・管理会計の基本的理解を得て、経営資源をコントロールする手法を説明することができる。 (2) 資金調達の形態について学習し、その特徴を理解することができる。 7. オペレーション戦略 (1) 組織全体としての最適化を図るための手法について理解することができる。 (2) 病院情報システムの概要および活用手法について説明することができる。		

	8. リスク管理 医療機関経営をめぐる各種のリスクの疫学について学習し、その発生要因や発生による影響について具体的に説明できる。 9. 医療経営評価の技法 (1) 医療経営に関する経営指標の意味を理解することができる。 (2) 医療機関に蓄積されている病院管理データの概要について理解し、医療費分析や質評価分析の実施手法を修得することができる。 10. ケース・スタディ 実際の医療機関の経営戦略について学習し、その特徴を理解する（事例は検討中）。 Ⅲ 授業計画 ① 医療経営学入門 ② 経営戦略 (1) ③ 経営戦略 (2) ④ 医療マーケティング (1) ⑤ 医療マーケティング (2) ⑥ 組織マネジメント ⑦ 人材マネジメント ⑧ アカウンティング・ファイナンス ⑨ オペレーション戦略 (1) ⑩ オペレーション戦略 (2) ⑪ リスク管理 ⑫ 医療経営評価の技法 (1) ⑬ 医療経営評価の技法 (2) ⑭ ケース・スタディ (1) ⑮ ケース・スタディ (2)
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	特に設定しないが、教員が他の用務で抜けられない時以外は、原則として、質問・相談等に応じる。
試験・成績評価	● 積極的な授業参加、ディスカッションポイントの把握と対応力（レポート等を含む）：50% ● 試験：50%

授 業 科 目 名	必修専門科目群（医療管理学）		
講 義 題 目	医療管理学－医療における「質の管理」と「安全管理」		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	鮎 澤 純 子		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 （１）「管理」に関する体系的な知識を修得する。 （２）医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める。 （３）医療における「質の管理」「安全管理」に関する知識と理解を深め、その具体的な実践の手法を修得する。 II 個別行動目標：以下の項目について理解し説明することができる（意見を述べるができる） 1. 1) 本講義の内容と意図 2) 本講義に関連する現時点での基礎知識 3) 終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2. 1) 「経営」と「管理」の相違 2) 組織における「経営」と「管理」の役割 3) 経営資源 3. 1) 医療管理学の対象 2) 医療の現場における管理の対象 4. 1) 組織のモデル 2) 産業界における組織管理 5. 1) 医療機関の組織構造とそれぞれの部門の役割 2) 医療機関の組織構造の特性 3) 医療界における組織管理 4) 産業界における組織管理の手法の医療界への応用の可能性 6. 1) 産業界における「質」の考え方の変遷 2) 産業界における「質の管理」の手法 7. 1) 医療界における「質」の考え方の変遷 2) 医療界における「質の管理」の手法 8. 1) TQMの考え方 2) 産業界におけるTQMの実務 3) 医療界におけるTQMの実務 9. 1) 臨床指標の考え方 2) 臨床指標を使った質の管理の実務 10. 1) 「質の管理」と「機能評価」 2) 日本医療機能評価機構の役割 3) JCとJCIの役割 4) 「質の管理」と「ISO」 11. 1) 医療の現場における「情報の管理」の重要性 2) 電子カルテの現状と課題 3) 情報の電子化に関する現状と課題 12. 1) 医療の現場における「物の管理」の重要性 2) S P Dの現状と課題 13. 日本と諸外国における安全管理の取り組みと研究の現状と動向 14. 1) リスクマネジメント 2) ヘルスケアリスクマネジメント 3) クラシスマネジメント 15. 質の管理と安全管理：ケーススタディ		

	Ⅲ 講義内容 1. オリエンテーションと確認試験 2. 医療管理学入門 (1) 3. 医療管理学入門 (2) 4. 組織管理 (1) 5. 組織管理 (2) 6. 質の管理 (1)：産業界における質の管理 7. 質の管理 (2)：医療界における質の管理 8. TQM の実務 9. 臨床指標を使った質の管理の実務 10. 「質の管理」と「機能評価」「ISO」 11. 医療の現場における「物の管理」 12. 医療の現場における「情報の管理」 13. 医療安全管理概論 (1) 14. 医療安全管理概論 (2) 15. 質の管理と安全管理：ケーススタディ
授業のすすめ方	・基本的に講義形式とするが、適宜出席者による発表、相互討論等を求めるものとする。 ・なお、講義スケジュールならびに内容は、受講生の基礎知識のレベル及びばらつき、スケジュールや内容に対する要望、また外部講師のスケジュール調整等によって変更する可能性があるものとする。
教科書及び参考書	・基本的に毎回配布資料を使用する。 ・教科書及び参考書については、随時授業のなかで指定・紹介する。
OFFICE HOUR	特に設定しない。原則として教官が在室の際は随時質問・相談等に応じるが、事前にアポを取ることが望ましい。
試験・成績評価	・積極的な授業参加、ディスカッションポイントの把握と対応力（レポート等を含む）：50% ・最終試験：50% ・上記を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	必修専門科目群（医療コミュニケーション学Ⅰ）		
講 義 題 目	医療コミュニケーション学Ⅰ		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	萩 原 明 人		
授 業 の 概 要	1. 一般学習目標 1) 医療の場におけるコミュニケーションの特徴，阻害要因，医療コミュニケーションと医療の質の関係について理解する。 2) 医療コミュニケーションと医療の質の関係について理解する。 3) 医療コミュニケーション研究の方法論の基礎について理解する。 4) わが国の医療コミュニケーションに関する研究から得られている知見について理解する。 5) マスメディアの機能と実際を学習し，理解する。 6) 医療とマスメディアの関係について理解する。 2. 個別行動目標 1. 医療コミュニケーション学の基礎知識（1） 1) 医療コミュニケーションの定義を理解する。 2) 医療コミュニケーションに関する代表的なモデルの概要について理解する。 2. 医療の場におけるコミュニケーションの特徴，阻害要因 1) 医療の場におけるコミュニケーションの特徴を理解する。 2) 医療の場において円滑なコミュニケーションを妨げる要因を理解する。 3. 医療者・患者コミュニケーションと医事紛争，治療効果 1) 医事紛争と医療者・患者間コミュニケーションの関係について理解する。 2) 治療効果と医療者・患者間コミュニケーションの関係について理解する。 4. 医師－患者コミュニケーションの定量的な評価方法 1) 医療コミュニケーション分野における，定量的な評価手法に関して理解する 5. わが国の医療機関の標榜科に関する問題 6. 医療機関による広告の効果（1） 7. 医療機関による広告の効果（2） 8. 自殺報道と群発自殺 9. 医療機関による広告の効果		
授業のすすめ方	実習及び講義形式		
教 科 書 及 び 参 考 書	「ヘルス・コミュニケーション改訂版」ノートハウス，ノートハウス著，萩原明人訳，九大出版会，その他講義で指定する。		
OFFICE HOUR	適宜予約		
試験・成績評価	積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力，課題（レポート等を含む）：50％・試験：50％		

授 業 科 目 名	必須専門科目群（演習Ⅰ・Ⅱ）		
講 義 題 目	医療経営管理・研究演習		
開 講 学 期	2年次 前期・後期	単位数	2
担 当 教 員	馬場園 明		
授 業 の 概 要	医療経営・管理を改善するためには、目標を明確にして、改善策を検討し、適切な指標を用いて、測定、推計、設計していく必要があります。医療経営・管理における要因には、さまざまなカテゴリーがあり、その構成要因も多数であることを考慮すれば、疫学・統計学を用いた証明方法を用いざるをえません。それを行わなければ、Evidenceとして蓄積されないからです。このゼミではEvidenceに基づいた研究を支援しますが、研究分野は、政策、経営、管理、コミュニケーションのいずれかを問いません。		
授業のすすめ方	研究ゼミの開催 4月 3回、5月 2回、6月 3回、7月 2回、8月 1回、10月 3回、11月 2回、12月 3回、1月 2回 合計 21回 学生自身が研究発表をしたり、他の学生や共同研究者の研究発表を聞いたりしながら、研究仮説の設定、文献の検索、データの収集、データの分析、論文の書き方を指導する。 疫学・統計ゼミの開催 12回 1) 確率 2) 確率分布 3) 二群の比較 (1) 4) 二群の比較 (2) 5) 分割表の解析 6) 区間推定 7) 相関係数の検定と区間推定 8) 回帰分析 9) 分散分析 10) 共分散分析 11) 生存時間解析 12) サンプルサイズの求め方		
教 科 書 及 び 参 考 書	基礎医学統計学：神納克己，高橋秀人，南江堂		
OFFICE HOUR	木曜日		
試験・成績評価	講義への積極的参加（出席，発言）30%，統計学試験20%，成果物50%とする。		

授 業 科 目 名	必須専門科目群（演習Ⅰ・Ⅱ）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	2 年次 前期・後期（通年）	単位数	2
担 当 教 員	萩 原 明 人		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（GIO） ・学生自身で研究テーマを見つけ、それを具体化して論文またはレポート形式でまとめる。 II 個別行動目標（SBO） 1）学生自身の研究テーマについては4月より検討する。 2）5～6月にかけて、研究テーマに関する先行研究のsystematic reviewを行う。 3）研究デザインを作成する。研究内容を演習で提示し、教員や他の院生からのコメントを参考にして、研究計画を完成させる。研究計画作成にあたっては、目的、方法、予想される結果とその意義を明確にすることを目標とする。 4）フィールドワーク先の決定や実際のワークは時間がかかるので、早めに着手する。 1, 2回）コース説明、文献検索の方法 3, 4回）文献の整理、内容の要約 5, 6回）研究仮説の設定 7, 8回）疫学（1）研究デザイン 9, 10回）統計（1）統計学の基本 11, 12回）疫学（2）交絡要因の考え方 13, 14回）統計（2）統計ソフト、記述統計量、分散分析 15, 16回）疫学（3）データ分析の方法 17, 18回）統計（3）回帰分析、ロジスチック回帰分析 19, 20回）解析結果の検討		
授業のすすめ方	ゼミ形式・個別指導		
教 科 書 及 び 参 考 書	研究テーマに沿って、必要に応じて提供する。		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	演習への積極的参加（出席、発言、小レポートの提出等）50%，成果物50%とする。		

授 業 科 目 名	必須専門科目群（演習Ⅰ・Ⅱ）		
講 義 題 目	医療経営管理・研究演習		
開 講 学 期	2年次 前期・後期	単位数	2
担 当 教 員	鴨 打 正 浩		
授 業 の 概 要	医療経営・管理を改善するためには、目標を明確にして、改善策を検討し、適切な指標を用いて、測定、推計、設計していく必要があります。医療経営・管理における要因には、さまざまなカテゴリーがあり、その構成要因も多数であることを考慮すれば、疫学・統計学を用いた証明方法を用いざるをえません。それを行わなければ、Evidenceとして蓄積されないからです。このゼミではEvidenceに基づいた研究を支援しますが、研究分野は、政策、経営、管理、コミュニケーションのいずれかを問いません。		
授業のすすめ方	研究ゼミの開催 4月 3回、5月 2回、6月 3回、7月 2回、8月 1回、10月 3回、11月 2回、12月 3回、1月 2回 合計 21回 学生自身が研究発表をしたり、他の学生や共同研究者の研究発表を聞いたりしながら、研究仮説の設定、文献の検索、データの収集、データの分析、論文の書き方を指導する。 疫学・統計ゼミの開催 12回 1) 確率 2) 確率分布 3) 二群の比較 (1) 4) 二群の比較 (2) 5) 分割表の解析 6) 区間推定 7) 相関係数の検定と区間推定 8) 回帰分析 9) 分散分析 10) 共分散分析 11) 生存時間解析 12) サンプルサイズの求め方		
教 科 書 及 び 参 考 書	基礎医学統計学：神納克己，高橋秀人，南江堂		
OFFICE HOUR	木曜日		
試験・成績評価	講義への積極的参加（出席，発言）30%，統計学試験20%，成果物50%とする。		

授 業 科 目 名	必修専門科目群（演習Ⅰ・Ⅱ）		
講 義 題 目	医療管理に関する演習		
開 講 学 期	2 年次 前期・後期	単位数	Ⅰ：1，Ⅱ：1
担 当 教 員	鮎 澤 純 子		
授 業 の 概 要	Ⅰ 一般学習目標 （１）医療管理に関する学生自身の研究テーマを見出し、その研究過程ならびに結果に関して、後期において成果物を作成する。 （２）事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関する実務を通して現場における問題解決の実践を重ね、その実務過程ならびに結果に関して、後期において成果物を作成する。 （３）事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関して優れた実績を挙げている組織や取り組みのケースを研究し、後期においてケーススタディとして成果物を作成する。 （４）作成過程の段階から演習において順次発表し、教官ならびに他の学生とのディスカッションを重ね、研究テーマならびに実務上の問題解決の視点を掘り下げると同時に、プレゼンテーション能力の涵養を図る。 Ⅱ 個別行動目標 1. 研究を通じた成果物 ・医療管理に関する具体的な研究テーマを見出し、その研究テーマについて成果物を作成し、演習で発表する。 ・研究テーマについては、すでに教員が取り組んでいる研究に加わるかたちで進めていくこともできる。 2. 実務演習を通じた成果物 ・事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関する具体的な実務演習の場を選択し、その実務課程ならびに結果について事例報告として成果物を作成し、演習で発表する。 3. ケースの研究を通じた成果物 ・事故防止・安全管理・リスクマネジメントをはじめ医療管理に関して優れた実績を挙げている組織や取り組みのケースを研究し、後期においてケーススタディとして成果物を作成する。 *「研究」「事例報告」「ケーススタディ」のいずれにおいても、成果物の作成を通して、先行する研究、事例報告、もしくはケーススタディに関する調査・分析を行うことができるようにする。 *「研究」「事例報告」「ケーススタディ」のいずれにおいても、成果物の作成の目的、方法、予想される結果、結果、作成の意義などを明確にすることができるようにする。 *いずれも、「医療経営・管理学講座成果物中間発表会」を経て、「医療経営・管理学講座成果物発表会」において、最終報告書に基づく発表を行う。また、特に優れていると認められる成果物については、その後、学術誌、一般誌等への投稿を指導する。		

	Ⅲ 授業の進め方 (1) 演習ゼミ開催予定 ・前期：4月3回，5月4回，6月4回，7月4回 計15回 ・後期：9月1回，10月4回，11月4回，12月3回，1月3回 計15回 合計30回 ・成果物の進捗状況に応じて個別演習を行う。 (2) 前期 ・成果物テーマ案を作成する。テーマ案を演習で発表し，教員及び他の学生からのコメントをふまえ，テーマを決定する。 ・成果物作成計画案を作成する。 ・決定したテーマについて成果物の骨格案を作成する。 ・骨格案に基づき内容の検討・充実を図り，「医療経営・管理学講座成果物中間発表会」に向けた準備を進める。 ・中間発表会でのコメントをふまえ，テーマ及び骨格に関する改善・充実を図る。 (3) 後期 ・成果物草稿（第一次）作成（9月） ・成果物草稿（第二次）作成（10月） ・成果物草稿（第三次）作成（11月） ・成果物最終稿作成（12月）
授業のすすめ方	・基本的に演習（ゼミ）形式とするが，各学生の成果物のテーマに応じて検討する。 ・オリエンテーションを経て，できるだけ早く成果物作成に着手することを目指す。
教科書及び参考書	・各学生のテーマに応じて必要なものを適宜紹介する。
OFFICE HOUR	・特に設定しない。教員が他の業務で抜けられない時以外は原則として随時・相談等に応じるが，事前にアポを取ることが望ましい。
試験・成績評価	・積極的な演習参加，ディスカッションポイントの把握と対応力：50% ・成果物ならびに成果物による発表内容：50% ・上記を総合的に評価し，60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	必須専門科目群（演習Ⅰ・Ⅱ）		
講 義 題 目	医療経営管理・研究演習		
開 講 学 期	2 年次 前期・後期	単位数	2
担 当 教 員	福 田 治 久		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 1) 医療経営学・医療管理学・医療政策学に関して、学生自身が研究テーマを設定し、研究の成果物を論文にまとめる。 2) 既存の医療システムを改善するために、評価指標を設定し、実際に測定し、科学的に検証する手法を学習する。 3) 学術論文を理解し、科学的な意思決定を下すための統計解析手法を習得する。 II 個別行動目標 1. 前期（4月～7月）：合計15回 ●文献検索，データ収集，データ解析について指導した上で，下記の課題についてプレゼンテーション・ディスカッションを重ね，研究計画書を完成させる。 （1）学生自身が関心を持つテーマに関する文献レビューを行い，研究の「必要性」，「価値」，「実施可能性」を整理し，研究テーマを決定する。 （2）研究の倫理的諸側面について学び，研究計画書を作成する。必要に応じて倫理審査を受審する。 （3）研究テーマに関する先行研究のsystematic reviewを行う。 2. 後期（8月～12月）：合計15回 ●多変量解析手法，統計ソフトウェアの扱い方などを指導した上で，下記の課題についてプレゼンテーション・ディスカッションを重ね，研究成果物を完成させる。 （1）研究仮説を検証するためのデータを作成する。 （2）統計ソフトウェア（SPSS/Stataなど）を用いたデータ解析を実施する。 （3）得られた結果を先行研究と比較し，適切に解釈する。 3. 重視している研究スタンス・研究テーマ例 ●Discipline-driven型ではなく，Issue-driven型の研究アプローチを重視する。 ●医療システムの改善を目標とした，仮説検証型のデータ解析を重視する。 ●想定される研究テーマ例 （1）医療システム・医療技術の費用対効果に関する研究 （2）医療経営指標を用いた病院パフォーマンス評価に関する研究 （3）病院管理データ・レセプトデータによる医療の質・疾病費用に関する評価研究		
授業のすすめ方	基本的に毎週開催する演習（ゼミ）形式とするが，フィールド調査等，不定期に集中して実施することもある。 研究テーマを早期に決定するために1年次後期から相談することを推奨する。		

教科書及び 参考書	研究テーマに沿って、必要に応じて指示する。
OFFICE HOUR	特に設定しないが、教員が他の用務で抜けられない時以外は、原則として、質問・相談等に応じる。
試験・成績評価	評価は、演習への参加状況（50%）、提出物（50%）とする。

(4) 選択専門科目群

授 業 科 目 名	選択専門科目群 (医療人事管理論)		
講 義 題 目			
開 講 学 期	2 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	萩 原 明 人		
授 業 の 概 要	1) 一般学習目標 医療機関における人事管理に関する諸問題を経営学, 法律学, およびコミュニケーション学の視点から, 多面的に理解する。 2) 個別学習目標 (1) 医療機関における労働上の問題を労働法の視点から理解する。 (2) 医療機関における複数の医療職種間のコミュニケーションの問題点を理解する。 (3) 医療機関における人事管理の実際を知る。 3) 具体的講義内容 1・2回. 講義の概要。医療機関における労働と法律, 医療者間のコミュニケーション) 3・4回. 医師と医師および医師と他職種(看護, 薬剤, リハビリ, 放射線, 事務部)間の連携の実際 5・6回. 病院事務およびリハビリテーション部の人事管理の実際 7・8回. 病院人事管理の理論 9・10回. 労働法上の問題点の検討(課題発表) 11・12・13回. 医療人事の進め方(課題発表) 14・15回. 医療訴訟の実際(法廷見学)		
授業のすすめ方	初回のイントロダクションは担当教官が行うが, 2回目以降は, 複数の実務者を招いて, 人事管理の实情や問題を中心に講義する。9回目以降は学生の課題発表を基に, 討論を中心に行う。		
教 科 書 及 び 参 考 書	なし。授業で取り上げる教材は事前に配布する。		
OFFICE HOUR	常時。		

試験・成績評価	学生の積極的な参加を得ながら授業を進める。学生のルーチンとして以下の事項がある。 1) 授業に出席し、積極的に討論に加わること。 2) 与えられた課題（労働法上の問題点の検討，医療人事の進め方）をこなし，成果を授業で発表すること。 コース評価は，出席点のほか，以上を総合的に判断して行う（出席点40%，課題40%，授業態度20%）。
---------	---

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療コミュニケーション学Ⅱ）		
講 義 題 目	医療コミュニケーションⅡ		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	須 藤 信 行		
対 象 学 生	医療コミュニケーション学コース		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（GIO） 患者やチーム医療の担い手である医療従事者を多面的に理解するために必要な知識を習得する。 II 個別行動目標（SBO） ①臨床コミュニケーションの重要性を理解する。 ②患者の状態は複雑多岐にわたるが、ケアを提供するスタッフとしては患者を多面的に理解し、病気に対する患者の反応とそれに対するスタッフの望ましい対応を習得する。その基礎として各自がライフサイクルについての知識をまとめて発表する。 講義の概要 第1回 オリエンテーション 患者と家族の心のケア 第2回～11回 ライフサイクルにおける発達課題、病理、対応 乳児期 幼児期 遊戯期 学童期 思春期 青年期 前成人期 成人期 中年期 老年期 第12回 臨床コミュニケーション（Ⅰ） 第13回 臨床コミュニケーション（Ⅱ） 第14～15回 病気に対する患者の反応とスタッフの応答 治療関係の構築と患者さんの人生のQOL		
授業のすすめ方	①臨床コミュニケーションについての概説を行う②ライフサイクルにおける基本的な8つのステージについて、その時期の発達課題、病理、対応などについて各自がまとめて発表する。また医療現場における患者、医療従事者、医療組織で、発達段階の未達成の課題が問題となっている現象を取り上げて、検討する。 なお、授業は後期に集中講義形式で行う。日程については受講登録前に連絡するが、10月初旬の予定。授業の順番は前後する可能性がある、又土日が含まれる可能性がある。		

教科書及び 参考書	必要時に関連資料を配布する。 「ライフサイクルの臨床心理学」馬場禮子・永井徹共著 培風館 1997
OFFICE HOUR	
試験・成績評価	平素の参加態度およびレポートにより評価する。

授 業 科 目 名	選択専門科目群（薬事情報学）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	家 入 一 郎・窪 田 敏 夫		
授 業 の 概 要	1. 一般学習目標（GIO） 1）医薬品の開発過程から臨床使用に至るあらゆる分野で発生する薬事情報，医薬品情報の質と量を理解する。 2）講義及び演習を通して，薬物療法に関連する医薬品情報の収集・整理・評価・構築・提供の方法を学ぶ。 3）受動的医薬品情報活動と能動的医薬品情報活動の違いを理解し，医薬品の適正使用における医薬品情報活動・研究の役割を学ぶ。 2. 個別学習目標（SIO） 1）医薬品開発 1. 医薬品開発のプロセスを非臨床試験と臨床試験に区別して説明することができる。 2. 医薬品製造承認に必要な薬事情報を列挙し説明できる。 3. 臨床試験において得られる情報を列挙することができる。 4. 医薬品開発過程で生じた情報が，医薬品を使用する現場でどのような意義をもつのかを説明できる。 5. 市販後調査において得られる情報とその役割を説明できる。 6. さらに，市販後調査と薬剤疫学的アプローチとの関わりを理解する。 2）医薬品情報活動 1. 医療現場における医薬品情報活動を理解する。 2. 受動的医薬品情報活動と能動的医薬品情報活動の違いを説明できる。 3. 医薬品情報の収集・整理・提供の基本的な方法論を学ぶ。 4. 薬物療法に関する情報の種類・情報源を列挙し説明することができる。 5. 適切な情報源にアクセスし，医薬品情報を収集することができる。 6. 医薬品を，治療効率・経済効率の側面からも評価することができる。 7. 個別化された医薬品情報と平均化された医薬品情報の役割を理解できる。 3）医薬品の適正使用 1. 医薬品適正使用の概念を理解する。 2. 適正な薬物療法を立案するのに必要な医薬品情報とそれを駆使する技術を学ぶ。 3. 薬物がヒト体内でたどる運命を，その機序も含めて説明できる（薬物動態学の理解）。 4. 薬物の主作用や副作用が起こるメカニズムを説明できる（薬理学と薬力学の理解）。 5. 過量投与や相互作用による副作用の発生を理解し，その機序を説明できる。 6. 薬物血中濃度測定に基づく薬物療法の個別化・最適化の方法を学ぶ。 7. 薬物動態学・薬力学に基づく副作用や薬物相互作用回避の方法を学ぶ。 8. EBM（evidence based medicine）と医薬品の適正使用の関わりを理解する。		

授業のすすめ方	講義および演習形式にて行う。授業は、一部オムニバス形式をとり、様々な領域の第一線で活躍する現役薬剤師、大学教官、製薬企業の開発担当者が行う。
教科書及び参考書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。
OFFICE HOUR	特に設けない
試験・成績評価	・事前課題への対応：20% ・授業参加（積極的な授業参加，有意義な発言など）：20% ・最終試験あるいはレポート：60%

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療オーガナイズ論）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	馬場園 明		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標 医療をオーガナイズするためには、広い知識と判断力が必要であり、科学性や合理性だけでは十分ではなく、社会的な価値の共有とか合意といった哲学や倫理的な問題も考慮されなければならない。取り上げる内容は、因果関係論、EBM、医療財務、感染症対策、健康の支援、生命倫理学などを取り上げる。 II. 個別行動目標 1) 因果関係を定義せよ 2) 健康危機管理を組み立てられる 3) オッズ比と罹患率比が同じになる条件について述べよ 4) 交絡を定義せよ 5) アウトブレイクの際の原因救命の方法論について記せ 6) 院内感染防止のための基本的な考え方について記せ 7) 損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の関係について記せ 8) 業務活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フローの組み合わせで財務をどう判断できるか 9) 収益性分析、安定性分析、生産性分析を組み合わせ、医療経営の戦略にどのように用いることができるか 10) 看護配置を7:1にするか、10:1にするかを決定する場合に必要な判断基準について述べよ 11) 経済状態が変化すれば、なぜ健康の概念は変化するのか 12) コヘレンス感健康に良い影響を与えるのはなぜか 13) 退行した高齢者への対応の原則について述べよ 14) パターナリズムが人権を尊重していない根拠について説明せよ 15) 臓器移植に関して残されている問題について論ぜよ III. 講義内容 1) イントロダクション、医学・医療における因果関係（10/2） 2) 健康危機管理（10/9） 3) ヘルス・サービス・リサーチのデザインと指標（10/16） 4) ヘルス・サービス・リサーチにおける誤差と交絡（10/23） 5) アウトブレイク対策（10/30） 6) 院内感染対策（11/6） 7) 財務管理概論（11/13） 8) 財務諸表の読み方（11/20） 9) 病院会計と経営分析（11/27） 10) 経営に必要な数字と計算（12/4） 11) 健康の概念と健康政策（12/11） 12) 健康支援学の理念と視座（12/18） 13) 高齢者のこころと食の支援（1/8） 14) インフォームド・コンセント（1/15） 15) 生きる権利と死ぬ権利（1/22）		

授業のすすめ方	講義は医療オーガナイズ論テキストに沿って行う。学生はキーワードの定義と課題を押さえておくこと。
教科書及び参考書	医療オーガナイズ論テキスト（最初の講義で配布する）
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	最終試験は、キーワードから20題，課題から2題出題する。 出席点50点，試験50点で，60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	選択専門科目群（病院管理論）		
講 義 題 目	病院管理論		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	鮎 澤 純 子		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 組織の経営資源とされるものを中心に、病院において管理の対象となるものについて、特色ある取り組みを行っている現場や卓越した実績を上げている現場の実務者を迎えた特別講義とディスカッションを通して、現場の職業人に必要な現実的な問題解決の知識と技術を修得する。 II 個別行動目標 1. 1) 本講義の内容と意図 2) 本講義に関連する現時点での基礎知識 3) 終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2. 1) 病院管理論の対象 2) 医療の現場における管理の対象 3) 病院における収支の概要 4) 病院の収支に関連する現状と課題 3. 4. (特別講義とディスカッション) 1) 看護部における管理の実務 2) 看護部における管理の現状と課題 5. 6. (特別講義とディスカッション) 1) 中央診療部における管理の実務 2) 中央診療部における管理の現状と課題 7. 8. (特別講義とディスカッション) 1) 病院の新築・改築の実務 2) 新築・改築における課題 3) 病院における物流の実務 4) 病院における物流の課題 9. 10. (特別講義とディスカッション) 1) 一般企業における記録・情報管理の実務 2) 病院における記録・情報管理の実務 3) 病院における記録・情報管理の課題 11. 12. (特別講義とディスカッション) 1) SPD 2) SPDの実務 3) SPDの現状と課題 13. 14. (SPDセンター見学) 15. 病院管理における今後の課題 III 講義内容 1. 2. オリエンテーションと病院管理論概論 3. 4. (特別講義とディスカッション): 病院管理の実務: 看護部 5. 6. (特別講義とディスカッション): 病院管理の実務: 中央技術部 7. 8. (特別講義とディスカッション): 病院の新築・改築, PFI, 病院の物流 9. 10. (特別講義とディスカッション): 病院における記録・情報管理 11. 12. (特別講義とディスカッション): 病院におけるSPD 13. 14. (SPDセンター見学) 15. 総括講義: 病院管理における今後の課題		

授業のすすめ方	・前期の「医療管理学」をふまえ、現場の実務者を外部講師として迎えての講義とディスカッションを中心とする。 ・特別講義とディスカッションは、原則2コマ続きとし、前半を講義、後半をディスカッションにあてる。 ・講義内容ならびに講義スケジュールは外部講師のスケジュールによって変更することがある。
教科書及び参考書	・必要に応じて資料を配布する。 ・教科書、参考書については、随時授業のなかで指定・紹介する。
OFFICE HOUR	特に設定しない。原則として教員が在室の際は随時・相談等に応じるが、事前にアポを取ることが望ましい。
試験・成績評価	・積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力：50% ・期末試験とレポート：50% ・上記を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療訴訟論）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	五十川 直 行		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（GIO） 法律学（ことに、民事法学）上の理論的・実践的観点から、「信頼に値する医療」へ向けた基本的な思考方法等を体得することを目標とする。 具体的には、 ① 医療実践と法制度との関わりにつき、その基本的な法枠組みを理解する。 ② ことに、患者・医師関係の法的ありかたにつき、その本質を理解する。 ③ 医療事故訴訟や近時の論争点につき、その基本的な問題の所在を理解する。 II 個別行動目標（SBO） ① 法制度一般につき、主体的な関心を抱き、かつ、一定の理解を得る。 ② 医療に関わる諸種の法制度につき、その全体的な関連を理解する。 ③ 患者・医師関係をめぐる法的概念につき、一定の理解を得る。 ④ 医療事故訴訟を構成する基本的法概念につき、一定の理解を得る。 ⑤ 生殖医療、患者の意思に反する治療、尊厳死、脳死、臓器移植など、医事法上の諸論争点につき、主体的な関心を抱き、かつ、一定の理解を得る。 ⑥ 医事法上の諸論争点に関し、自分の考えを法理論的にまとめることができる。 ⑦ 「信頼に値する医療」に向けた法的思考方法につき、一定の認識を得る。		
授業のすすめ方	講義形式を併用しながらも、基本的には演習の形式で進めたい。		
教 科 書 及 び 参 考 書	最新の文献等につき、追って指示する。		
OFFICE HOUR	授業時間に続く一時間程をもって、これに充てる。		
試験・成績評価	平素の成績		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療マーケティング論）		
講 義 題 目	医療におけるマーケティングの実際と課題		
開 講 学 期	2年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	馬場園 明		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標 医療マーケティング論では、医療サービス提供者が、患者のニーズ（ある充足状況が奪われている状態）やウオント（ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求）を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ。 II. 個別行動目標 次の質問を説明できる 1) 戦略的マーケティングを定義せよ 2) 市場機会分析のプロセスを示せ 3) マーケティング・ミクスとは何か 4) ブルーオーシャン戦略を定義せよ 5) 成長戦略の概要を述べよ 6) バランスト・スコアカードが経営改善につながるための条件について記せ 7) EMRの克服すべき問題について述べよ 8) 患者満足度と従業員満足度との共通課題と相違点について述べよ 9) ソーシャル・マーケティングを定義せよ 10) 健診受診の動機づけを行うにはどうすればよいか疾病管理の目的について記せ 11) 患者の心を理解するにはどのような仕組みが必要か 12) 高齢者の栄養ケア・マネジメントについて記せ 13) 嚥下・摂食支援のプロセスについて記せ 14) CCRCを定義せよ 15) 地域包括ケアを定義せよ III. 講義内容 1) イントロダクション，戦略的マーケティング（4/10） 2) 市場機会分析と市場の選択（4/17） 3) マーケティング・ミクス（4/24） 4) 競争戦略とブルーオーシャン戦略（5/8） 5) 成長戦略（5/15） 6) バランスト・スコアカード（5/22） 7) マーケティング・リサーチ（5/29） 8) 医療サービスの特徴，患者満足度と従業員満足度（6/5） 9) ソーシャル・マーケティング（6/12） 10) 福岡県における乳がん及び子宮がん検診受診率向上に向けた研究（6/19） 11) 患者さんの心を可視化するツールの開発（6/26） 12) 高齢者の栄養ケア・マネジメント（7/3） 13) 高齢者の嚥下・摂食支援（7/10） 14) CCRC（高齢者健康コミュニティ）の建設のためのマーケティング（7/17） 15) 地域包括ケアシステムの現状と課題 -ケース・スタディ-（7/24）		

授業のすすめ方	講義はマーケティング論テキストに沿って行う。学生はキーワードと課題を押さえておくこと。
教科書及び参考書	医療マーケティング論テキスト（最初の講義で配布する）
OFFICE HOUR	木曜日
試験・成績評価	最終試験は、キーワードから20題、課題から2題出題する。 出席点50点、試験50点で採点し、60点以上を合格とする。

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療財務管理論）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	堺 孝 明, 池上 恭子		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（GIO） 1) 個々の医療施設に, 社会一般通念として醸成してきている「経済的合理性」・「経済的効率性」・「市場の論理」が, どの程度ないしはどのように適用されるべきかを探求する。 2) 病院経営・診療所経営を, 「ひと・もの・かね」の最適なバランスがどうあるべきか, また, その標準化指標の可能性を, 特に財務的視点から検討する。 3) 以上の視点からの理解・学習から, 医療専門経営者・医療財務マネージャー（＝トレジャーラー）としての資質を高めることを目標とする。 II 個別行動目標（SBO） 1) 病院会計準則にしたがって財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）のしくみを理解する。 2) 収益性, 安全性, 生産性, 機能性等の経営分析指標を理解する。 3) 「病院経営管理指標」を利用し, 個別の医療施設の比較経営分析を行う。 資金調達および運用, 資金管理などの視点から問題点を抽出し, 解決できる力を修得する。 4) 医療設備等の投資決定に際しての投資の評価方法について理解する。 5) 新たな資金調達方法のしくみと利用可能性について理解する。		
授業のすすめ方	基本的には講義形式。問題を解くコマもあり。 （講義開始までに, 簿記三級程度の基礎知識を自学自習しておくこと。）		
教 科 書 及 び 参 考 書	テキスト, プリント, 資料等でおこなう。		
OFFICE HOUR	随時, メールで受付。		
試験・成績評価	・レポート：30% ・授業参加態度, 出席状況：70%		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療の質概論）		
講 義 題 目	医療の質概説講義		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	鴨 打 正 浩		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 1. 医療の質に関する概念を理解する。 2. 医療の質を評価する。 3. 医療現場における質を考察し、次世代の医療に応用する能力を身につける。 II 個別行動目標 1. 医療における質とは何かを説明する。 2. 医療の質に関する概念の歴史的背景を述べる。 3. 国内外の医療の質改善に関する取り組みを説明する。 4. 臨床指標を列挙する。 5. 医療の質に関連する各分野の問題点を討議する。 6. 医療現場における医療の質を測定する。 7. 医療の質改善のための方策を創造する。 講義内容 ・医療における質 ・チーム医療 ・医療の標準化 ・クリティカルパス ・診療録とIT化 ・クオリティインディケータ ・医療安全 ・医療情報 ・感染対策 ・医療システム ・DPC ・地域医療連携 ・診療ガイドライン ・EBM (Evidence based Medicine) ・ベンチマーク		
授業のすすめ方	講義を中心として、適宜ワークショップ、総合討論などを行う。		
教 科 書 及 び 参 考 書	David B. Nash, Neil I. Goldfarb: The Quality Solution. The stakeholder's guide to improving health care. Jones and Bartlett Publishers.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問、相談に応じる。		
試験・成績評価	出席状況、受講態度および試験により採点を行う。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（疾病管理学）		
講 義 題 目	疾病管理概説講義		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	鴨 打 正 浩		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 1. 疾病管理の概念を理解する。 2. 疾病管理の方法を知る。 3. 疾病管理を行う能力を身につける。 II 個別行動目標 1. 疾病管理の歴史について述べる。 2. 疾病管理の目的を述べる。 3. 患者指導について類別する。 4. 疾病の管理方法を一般化する。 5. 疾病管理する上での患者の心理状態を感じる。 6. 疾病管理のための医療情報について調べる。 7. 実際の疾病管理プログラムを作成する。 講義内容 ・ 疾病管理の歴史と世界的潮流 ・ 日本における疾病管理 ・ 疾病管理モデル ・ 疾病管理とIT化 ・ 疾病管理の費用対効果 ・ 疾病管理アプローチ ・ 地域医療連携 ・ 特定健診・保健指導 ・ ヘルスサービス ・ 疾病管理プログラム ・ 疾病管理の実際と展望		
授業のすすめ方	講義を中心として、適宜ワークショップ、総合討論などを行う。		
教 科 書 及 び 参 考 書	必要に応じて適宜配布する。		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問、相談に応じる。		
試験・成績評価	出席状況、受講時態度および試験により採点を行う。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（ケアコミュニケーション論）		
講 義 題 目	ケアコミュニケーション概説		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	鴨 打 正 浩		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（GIO） 1. 医療の現場におけるコミュニケーション問題を理解する。 2. 患者の心理状態を感じ、その背景に知る。 3. 実臨床において問題を解決することのできるコミュニケーション能力を修得する。 II 個別行動目標（SBO） 1. 患者状態が複雑多岐にわたることを説明する。 2. 病気に対する患者の反応を類別し、予測する。 3. ケアを提供する側と患者側の心理状態を対比する。 4. 医療現場における実際の事例をととしてコミュニケーションについて討議する。 5. コミュニケーション技術に熟練する。 講義内容 ・医療者-患者のコミュニケーション ・医療者間のコミュニケーション ・医療者-社会のコミュニケーション ・チーム医療におけるコミュニケーション ・情報の共有化 ケアコミュニケーションの臨床（I） ケアコミュニケーションの臨床（II） 病気に対する患者の反応とスタッフの応答 患者の多面的メッセージの理解 治療関係の構築		
授業のすすめ方	患者，医療従事者，医療組織，社会におけるコミュニケーション事例を取り上げて検討する。 セミナー，ワークショップ形式を主として，適宜講義を交える。		
教 科 書 及 び 参 考 書	必要時に関連資料を配布する。		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問，相談に応じる。		
試験・成績評価	平素の成績およびレポートにより評価する。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（医療人間学）		
講 義 題 目	医療人間学		
開 講 学 期	1 年次 前期	単位数	2
担 当 教 員	荒 木 正 見		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標（G I O） 患者－家族－医療従事者－地域などで構成されるチーム医療の現場における総合的な諸問題や、組織としての病院における経営や管理などに関する多様な問題を論ずるための、哲学や倫理学、人間学に根ざした、医療の基礎に横たわる考え方や、根本的な危機管理の考え方を、具体的な例とともに学ぶ。 II 個別行動目標（S B O） 1）医療の基礎となり危機管理の根本としての人間・社会理解（5時間） ①哲学的存在論および認識論の考え方。 ②人間学の理解。 ③エリクソン、交流分析と人格発達論。 ④歴史と社会、個人の捉え方。 ⑤コミュニケーションと論理的思考訓練。 2）医療倫理の根底（4時間） ①普遍的な倫理学的根拠。 ②医療倫理考察の基本。 ③医療倫理の諸問題。 3）医療従事者としての自己実現（4時間） ①人格的成熟のための真に健康な生き方。 ②生死観とQ O L。 ③人格発達のためのイメージトレーニング。 ④医療従事者としての個性的生き方。 ⑤病気の根底的理解。 4）総合的理解 =いかに思考し、行動し、健康を目指して生きていくべきか。（2時間） ①全人格的な存在としての生き方。 ②医療従事者という高度なゼネラリストとしての生き方。		
授業のすすめ方	7 月中～下旬に集中講義の予定(日時は事前に連絡する。土日を含む可能性がある。)		
教 科 書 及 び 参 考 書	関連資料を配布する。		
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じるほか、メール等で必要な対応をする。		
試験・成績評価	平素の成績、受講態度、およびレポートにより評価する。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（インフォームド・コンセント）		
講 義 題 目	心身医学・精神医学概論		
開 講 学 期	2 年次 前期	単位数	1
担 当 教 員	吉 田 素 文 ・ 菊 川 誠		
授 業 の 概 要	日常医療および臨床研究におけるインフォームドコンセント（以下IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ICの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ICを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。		
授業のすすめ方	・ 前期の5週間連続する火曜日午後の3, 4時限に開講される。 〔授業日程〕 6月4日（火） 6月11日（火） 6月18日（火） 6月25日（火） 7月2日（火） 〔会 場〕 ウェストウイング4階 臨床大講堂 ウェストウイング3階 クリニカルスキルトレーニングセンター ・ 以下のテーマの講義を受講する。 ▶ICをめぐる患者側の視点 ▶日常医療におけるICをめぐる医療者側の視点 ▶臨床研究におけるICをめぐる医療者側の視点 ▶ICをめぐる法的な側面 ・ 複数の学部学科の学生からなる混合チームで以下の学習活動を行う。 ▶グループ討論 ▶学生相互のロールプレイ ▶模擬患者とのロールプレイ		
教 科 書 及 び 参 考 書	出席・欠席状況……40%，課題レポート……60% レポートの内容により、ポートフォリオ（学習やレポート作成に使用したノート、資料などをファイルしたもの）の提出を求めることがある。		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	出席・欠席状況……40%，課題レポート……60% レポートの内容により、ポートフォリオ（学習やレポート作成に使用したノート、資料などをファイルしたもの）の提出を求めることがある。		
そ の 他	アンケートによる授業評価を行う。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群（衛生学）		
講 義 題 目			
開 講 学 期	2年次 後期	単位数	1
担 当 教 員	清 原 裕・田 中 昭 代・平 田 美由紀		
授 業 の 概 要	I. 一般学習目標 人間の健康は自然・生活環境と労働環境によって影響を受ける。衛生学では主に化学的要因，物理的要因と社会とのかかわりの中で健康問題を把握し，対策方法を学ぶ。 II. 個別行動目標 産業保健に関しては，産業保健の現状，労働衛生法規，労働安全衛生管理の方法，職業性疾患とその予防について説明できる。 環境保健に関しては環境と適応，上下水道の概要，環境汚染の健康への影響について説明できる。 III. 講義内容 1) 衛生学概論 2) 産業保健 : 労働衛生の基本 3) 産業保健 : 労働衛生三管理 4) 環境保健 : 水環境と健康 5)～8) 産業保健・環境保健 : 工場見学および公共環境施設見学		
授業のすすめ方	講義形式・見学実習		
教科書及び参考書	講義資料集を配布し，教科書及び参考書は必要に応じて紹介する。		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	出席と各講義・見学毎のレポート提出により評価する。		

授 業 科 目 名	選択専門科目群 特別選択科目Ⅱ（医療安全管理論）		
講 義 題 目	医療の現場における安全管理に関する特別講義		
開 講 学 期	1 年次 後期	単位数	2
担 当 教 員	鮎 澤 純 子		
授 業 の 概 要	I 一般学習目標 （１）近年の日本及び諸外国における安全管理をめぐる取り組みと研究の現状と動向を理解する。 （２）医療安全に関する基本的な事項を理解する。 （３）日本の医療の現場における具体的な取り組みについて理解し、現場の職業人に必要な知識と技術を修得する。 （４）日本の医療の現場における安全管理及びリスクマネジメントに関する問題点を整理し、今後の課題及びこれからの取り組みのありかたについて自らの意見を述べることができる。 II 個別行動目標：以下の項目について理解し説明することができる（意見を述べる） 1. 1) 本講義の内容と意図 2) 本講義に関連する現時点での基礎知識 3) 終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2. 1) 日本における安全管理をめぐる取り組みの経緯と取り組みの新しさ 2) 日本における安全管理をめぐる研究 3. 1) 諸外国における取り組みの経緯 2) WHO, JC, JCI, IHIなどの代表的な取り組みの内容 3) 「IOMレポート」「AHRQレポート」などの代表的な報告書の内容 4) 近年の医療安全に関するエビデンス 5) 「Healthcare Risk Management」と「Quality Improvement」の概要 4. 「fool proof」「fail safe」「5 S」「スイスチーズモデル」「KYT」「ヒューマンエラー」などの医療安全に関する基礎的な事項 5. 「RCA」「FMEA」などの分析手法 6. 1) 「報告制度」の考え方と実務 2) 安全管理における「報告制度」の役割と今後の課題 7. 1) 医療法に定める「指針」「委員会」「院内研修」「報告制度等の改善策」の実務 2) 「医療の安全を確保するための措置」「医薬品の安全管理体制」「遺漏機器の保守点検・安全使用に関する体制」などの実務 8. 「医療安全管理責任者」「リスクマネジャー」の実務 9. 1) 医療の現場における事故発生時の実務 2) 「リスクコミュニケーション」と「クライシスコミュニケーション」の概要 10. 1) 「記録」の重要性 2) 事故発生時の記録の実務 11. 1) 「事故調査」と「事故調査報告書」の考え方と実務 2) 「事故調査」と「事故調査報告書」の役割と今後の課題 12. 医療安全に関連する保険 13. 医療安全に関連する法的責任 14. 事故に学ぶ（１）－ケーススタディ 15. 事故に学ぶ（２）－ケーススタディ		

	Ⅲ 講義内容 1. オリエンテーションと確認試験 2. 日本における安全管理をめぐる取り組みの現状と動向・日本における安全管理をめぐる研究の現状と動向 3. 諸外国における安全管理をめぐる取り組みの現状と動向・諸外国における安全管理をめぐる研究の現状と動向 4. 安全管理に関する基本的な事項：(1) 基本的な事項 5. 安全管理に関する基本的な事項：(2) 分析手法 6. 報告制度 7. 医療法に定める現場の取り組み 8. 「医療安全管理責任者」「リスクマネジャー」の実務 9. 事故発生時の対応 (1) - リスクマネジメントとリスクコミュニケーション, クライシスマネジメントとクライシスコミュニケーション 10. 事故発生時の対応 (2) - 記録 11. 事故発生時の対応 (3) - 事故調査と事故調査報告書 12. 関連する法的責任 13. 関連する保険 14. 事故に学ぶ (1) - ケーススタディ 15. 事故に学ぶ (2) - ケーススタディ
授業のすすめ方	・基本的に講義形式とするが、適宜出席者による発表、相互討論等を求めるものとする。 ・なお、講義スケジュールならびに内容は、受講生の基礎知識のレベル及びばらつき、スケジュールや内容に対する要望、また講師のスケジュール調整等によって変更する可能性があるものとする。
教科書及び参考書	・基本的に毎回配布資料を使用する。 ・教科書及び参考書については、随時授業のなかで指定・紹介する。
OFFICE HOUR	特に設定しない。原則として教員在室の際は随時質問・相談等に応じるが、事前にアポを取ることが望ましい。
試験・成績評価	・積極的な授業参加、ディスカッションポイントの把握と対応力：50% ・期末試験とレポート：50% ・上記を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

9. 授業科目及び修得すべき単位数

○医療学基礎科目群

授 業 科 目 名	配 年 次	単位数	担 当 教 員	1 年次		2 年次		掲 載 頁
				前期	後期	前期	後期	
医学概論	1	1	医療経営専任教員全員	○				14
分子医学概論	1	1	住本教授	○				15
内科学（注）	1	1	赤司教授	○				17
	1	1	須藤教授	○				19
外科学	1	1	前原教授	○				21

※非医系学生（医学科，歯学科，薬学科，保健学科，看護学科以外の学科の卒業者）の必修科目
4単位すべて必要

注）「病態制御学Ⅴ①，②」（赤司教授），「病態制御学Ⅴ③」（須藤教授）の1科目（1単位分）を履修のこと

○共通基礎科目群

授 業 科 目 名	配 年 次	単位数	担 当 教 員	1 年次		2 年次		掲 載 頁
				前期	後期	前期	後期	
医療保障法	1	2	福田准教授		○			22
疫学	1	2	吉村教授・久保講師	○				24
医学統計学	1	2	清原（千）講師	○				26
医療情報学	1	1	中島准教授		○			28
社会医学	1	1	池田教授	○				29
医療行政学	1	2	萩原教授		○			31

※医系及び非医系学生の選択必修科目6単位以上必要

○必修専門科目群

授 業 科 目 名	配 年 次	単位数	担 当 教 員	1 年次		2 年次		掲 載 頁
				前期	後期	前期	後期	
医療政策学	1	2	馬場園教授	○				33
医療財政学	1	2	福田准教授	○				35
医療経営学	1	2	福田准教授		○			37
医療管理学	1	2	鮎澤准教授	○				39
医療コミュニケーション学Ⅰ	1	2	萩原教授	○				41
演習Ⅰ	2	1	指導教員			○		42
演習Ⅱ	2	1	指導教員				○	47

※医系及び非医系学生の必修科目12単位すべて必要

○選択専門科目群

授 業 科 目 名	配 年 次	単位数	担 当 教 員	1 年次		2 年次		掲 載 頁
				前期	後期	前期	後期	
医療人事管理論	1, 2	2	萩原教授			○		49
医療コミュニケーション学Ⅱ	1, 2	2	須藤教授		○			51
薬事情報学	1, 2	1	家入教授・窪田准教授	○				53
医療オーガナイズ論	1, 2	2	馬場園教授		○			55
病院管理論	1, 2	2	鮎澤准教授		○			57
医療訴訟論	1, 2	2	五十川教授		○			59
医療マーケティング論	1, 2	2	馬場園教授			○		60
医療財務管理論	1, 2	2	堺教授・池上准教授		○			62
医療の質概論	1, 2	2	鴨打教授	○				63
疾病管理学	1, 2	2	鴨打教授		○			64
ケアコミュニケーション論	1, 2	2	鴨打教授		○			65
医療人間学	1, 2	2	荒木教授	○				66
インフォームド・コンセント	2	1	吉田教授・菊川助教			○		67
衛生学	2	1	清原（裕）教授・田中講師・平田助教				○	68
特別選択科目Ⅱ （医療安全管理論）	1	2	鮎澤准教授		○			69

○専門職大学院コンソーシアムの「相互履修対象科目」について

- ・経済学府産業マネジメント専攻：

「マーケティング戦略」（2単位）,「産学連携マネジメント」（2単位）,「知識マネジメント」（2単位）,「企業価値創造とM&A」（2単位）

- ・人間環境学府実践臨床心理学専攻：

「産業・組織臨床心理学特論」（2単位）,「司法矯正臨床心理学特論」（2単位）

- ・法科大学院：

「企業法務」（2単位）,「契約実務」（2単位）

を15単位を限度として履修することができ、課程修了の要件となる単位に充当することができる。

10. 履修モデル

科目名／合計単位数		単位数	医療政策に関連した行政、保険者関係者(医療系)	38	医療政策に関連した行政、保険者関係者(非医療系)	38	医療機関の医療系従事者	45	医療機関の非医療系従事者	41	医療経営・管理に関連した教育関係者(医療系)	36	医療経営・管理に関連した教育関係者(非医療系)	41	医療経営・管理に関連したコンサル関係者(医療系)	36	医療経営・管理に関連したコンサル関係者(非医療系)	38	医療経営・管理に関連した情報系関係者(医療系)	36	医療経営・管理に関連した情報系関係者(非医療系)	38
科目群	科目名																					
医療学基礎科目群	医学概論	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医療学基礎科目群	分子医学概論	1																				
医療学基礎科目群	内科学	1																				
医療学基礎科目群	外科学	1																				
共通基礎科目群	医療保険法	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共通基礎科目群	疫学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共通基礎科目群	医学統計学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共通基礎科目群	医療情報学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共通基礎科目群	社会医学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
共通基礎科目群	医療行政学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療政策学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療財政学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療経営学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療管理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	医療コミュニケーション学Ⅰ 演習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
必修専門科目群	演習Ⅱ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	薬事情報学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療マーケティング論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療人事管理論	2					○	○	○	○						○						
選択専門科目群	医療財務管理論	2	○	○	○	○			○	○								○	○	○	○	○
選択専門科目群	病院管理論	2					○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療訴訟論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	ケアコミュニケーション論	2					○	○	○	○												
選択専門科目群	医療人間学	2					○	○	○	○									○	○	○	○
選択専門科目群	医療オーガナイズ論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療コミュニケーション学Ⅱ	2					○	○	○	○												
選択専門科目群	医療の質概論	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	疾病管理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	インフォームド・コンセント	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	衛生学	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択専門科目群	医療安全管理論	2					○	○	○	○						○	○					

11. 平成25年度授業時間割

【前期】

時限 曜日		1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
		8:40～10:10	10:30～12:00	13:00～14:30	14:50～16:20	16:40～18:10	18:30～20:00
月	1 年	外科学（前原，他） 総・104セミナー室					
	2 年						
火	1 年	医療管理学（鮎澤） 総・204セミナー室 ----- 医学統計学（松尾） 総・2F ITルーム		医療政策学 （馬場園） 医療・演習室	医療コミュニケーション学Ⅰ （萩原） 総・204セミナー室	医療財政学 （福田） 総・204セミナー室	疫学 （吉村） 総・204セミナー室
	2 年			インフォームド・コンセント （吉田，菊川） スキルトレーニングセンター・臨床大講堂			演習Ⅰ （各教員）
水	1 年	内科学：病態制御学Ⅴ③ （須藤） 基礎B・講義室	医学概論 （全専任教員） 医療・演習室	社会医学 （池田） 総・105セミナー室			
	2 年	医療マーケティング論 （馬場園） 医療・演習室					
木	1 年		内科学：病態制御学Ⅴ①② （赤司） 基礎B・講義室	医療の質概論 （鴨打） 総・204セミナー室	薬事情報学 （家入，窪田） 総・204セミナー室		
	2 年			医療人事管理論（萩原） 総・205セミナー室			
金	1 年	内科学：病態制御学Ⅴ③ （須藤） 基礎B・講義室	分子医学概論 （住本） 総・204セミナー室				
	2 年		内科学：病態制御学Ⅴ①② （赤司） 基礎B・講義室				

〔講義場所〕 総：総合研究棟，基礎B：医学部基礎研究B棟，医療：医療経営・管理学棟

※時間割は変更される場合があります。

※内科学の授業は変則日程で開講されます。

※各授業科目の開講日については，別途配布の「平成25年度前期授業日程」で確認してください。

【集中講義】

授業科目名	担当教員	日 程	講義室	備 考
医療人間学	荒木（正）	7月中旬～下旬（予定）	医療・演習室	開講日時は別途通知

【後 期】

時限 曜日		1 時限目 8:40～10:10	2 時限目 10:30～12:00	3 時限目 13:00～14:30	4 時限目 14:50～16:20	5 時限目 16:40～18:10	6 時限目 18:30～20:00
月	1 年						
	2 年						
火	1 年	医療安全管理論（鮎澤） 総・204セミナー室		医療保障法 （福田） 総・204セミナー室	医療経営学 （福田） 総・204セミナー室	ケアコミュニケーション論 （鴨打） 総・204セミナー室	
	2 年	衛生学（清原，田中，平田） 基礎B・講義室					演習Ⅱ （各教員）
水	1 年	医療オーガナイズ論 （馬場園） 総・204セミナー室		疾病管理学 （鴨打） 総・204セミナー室	医療行政学（萩原） 総・204セミナー室		
	2 年						
木	1 年		病院管理論（鮎澤） 総・204セミナー室			医療訴訟論（五十川） 総・204セミナー室	
	2 年						
金	1 年			医療情報学（中島） 【曜日・時限変則開講】 総・2F IT ルーム			
	2 年						

〔講義場所〕 総：総合研究棟，基礎B：医学部基礎研究B棟，医療：医療経営・管理学棟

※時間割は変更される場合があります。

※衛生学，医療情報学の授業は変則日程となります。

※各授業科目の開講日については，別途配布の「平成25年度後期授業日程」で確認してください。

【集中講義】

授業科目名	担当教員	日 程	講義室	備 考
医療コミュニケーション学Ⅱ	須藤	10月（予定）	医療・演習室	開講日時は別途通知
医療財務管理論	堺，池上	1月～2月（予定）	医療・演習室	開講日時は別途通知

12. 医療経営・管理学専攻最終成果物執筆要領

1. 原稿の一行目にタイトル、二行目に著者名を書く。
2. 和文原稿はワードプロセッサを用いA4判用紙40字×36行（1440字）横書きとする。上下左右のマージンは2 cm, フォントはMS明朝で, サイズは10.5とする。
3. 原稿枚数は図表を含めて概ね10枚以内とする。
4. 論文に求められる基本的な要件は, テーマ, はじめに, 対象と方法, 結果, 考察, 参考文献である。
5. 論文以外の成果物については, 自由書式とする。
6. 成果物の最後には, 英文抄録（400語以内）およびその和文抄録をつける。英文抄録, 和文抄録に関しては, 改頁を行うこと。

英文抄録は, Purpose, Method, Results, Discussionから構成される構造化アブストラクトとする。英文フォントはArialとし, サイズは10.5とし, ダブルスペースで記入すること。英文抄録にはKey words（5 words以内）を本文から一字あけて, 以下のように記入すること。

Key words: co-payments, health insurance, hypertension, diabetes mellitus

和文抄録は, 【目的】, 【方法】, 【結果】, 【考察】から構成する。キーワードは, 本文から一字あけて, 以下のように同様に記入すること。

キーワード: 自己負担, 健康保険, 高血圧, 糖尿病

7. 引用文献は引用順に番号をつけて最後に一括し, 下記の記載例に従うこと。本文中にも, 「・・・報告されている¹⁾。・・・知られている^{2,3)}。・・・他の研究を参照した^{4,5)}。」のように文献番号をつける。著者が7名以上の場合は最初の3名を記し, あとは「他」(英文ではet al.)とする。
〈学術雑誌〉著者名, 表題, 雑誌名, 発行年（西暦）; 巻: 頁。

1. 西垣千春, 多田羅浩三, 老人の入院医療に関する医療保険の種類別比較分析, 日本衛生学雑誌, 1988; 43: 741-748.

2. Mccusker J and Stoddard AM, Effects of an expanding home care program for the terminally ill, Med Care, 1987; 25: 373-384.

〈単行本〉著者名, 表題, 編者名, 書名, 発行所在地: 発行所, 発行年（西暦）; 引用頁。

3. 馬場園明, 疫学, 山田裕章編, 現代健康学, 福岡: 九州大学出版会, 1998; 41-56.

4. Johnsen AR, Siegler M, Winslade WJ, Preferences of Patients, Clinical Ethics, New York: McGraw-Hill, 1992; 37-84.

13. 医療経営・管理学専攻成績評価規則

制定 平成13年4月1日

改正 平成25年2月23日

第1条 (成績の区分)

学生の成績はA, B, C, Dの4段階とし, C以上を合格とする。ただし, 特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

第2条 (成績区分の標準)

A, B, C, Dの基準は, 下記の通りとする。

A 80点以上, B 70点以上, C 60点以上, D 不合格(60点未満)

第3条 (成績評価)

成績は, 筆記試験及び平常点によって評価する。ただし, 実習科目並びに相当の理由がある場合は, レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

- 2 各教員は, 成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき, 学生が履修する前に公表しておくものとする。
- 3 教員による採点は, 原則として素点によって行う。ただし, 学生には素点ではなく, 4段階評価で通知する。

第4条 (成績評価に対する調査請求)

学生は, 本専攻の授業科目について受けた成績評価につき不服がある場合には, 調査請求を行うことができる。

第5条 (調査請求の手続)

学生は, 前条の調査請求を行う場合には, 調査を請求する授業科目名、担当教員名、請求する調査の内容、及びその理由を記載した調査請求書を、大学院係に提出しなければならない。

- 2 前項の理由は, 公表された成績評価方法を踏まえて, これを具体的に述べなければならない。
- 3 第1項の調査請求書は, 当該成績が発表された日から1週間以内に提出しなければならない。ただし, 当該期間内に提出できなかったことにつき正当な理由がある場合はこの限りでない。

第6条 (調査請求に対する回答)

前条第1項の調査請求書が提出された場合、当該成績評価を行った教員は速やかに調査を行ったのち、調査請求書が提出された日から10日以内に、調査結果を説明した回答書（以下「調査結果回答書」という。）を大学院係に提出するものとする。

附 則

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成25年3月1日から施行する。

14. 学生生活のしおり

事務手続等

1. 連絡・受付

1) 事務窓口

医学系学府の皆さんの各種手続き等は学務課大学院係で受け付けます。

窓口事務取扱時間は、8時30分～17時15分です。

2) 連絡

皆さんへの連絡は、基本的に大学院掲示板で行います。掲示を見なかったことによって不都合や不利益が生じることはないよう、必ず掲示板を見るようにしてください。

2. 各種証明書の発行

在学証明書及びJR学生旅客運賃割引証（学割証）は、証明書自動発行機で発行します。通学定期券購入用の通学証明書は窓口で交付し、成績証明書、修了見込証明書等は申込の日から原則として3日後に交付します。ただし、英文による証明書については、原則として7日後に交付します。

学生定期健康診断を受診した者の健康診断証明書は、自動発行機で発行します。発行されない場合は健康科学センター病院地区健康相談室に申し込んでください。

3. 各種届と願（各様式は医学系学府ホームページからダウンロードできます。）

<http://www.grad.med.kyushu-u.ac.jp/procedure/index.html>

1) 履修届の提出

履修する授業科目について、学期毎に指示された日時までに大学院係あて履修届を提出してください。

2) 現住所変更届

学生及び保護者等（緊急連絡先）の住所変更が生じた場合は、速やかに大学院係へ報告してください。

3) 改姓・本籍・保護者等の変更届

変更が生じたら届け出てください。改姓の場合は住民票記載事項証明書を添付してください。

4) 休学願

病気、その他やむを得ない事情で2ヶ月以上修学できない場合は、願い出により休学することができます。指導教授とよく相談のうえ所定の様式で（病気の場合は診断書添付）学府長宛に願い出てください。

なお、学期が始まる前（3月31日又は9月30日）までに休学が許可された者の休学期間中の授業料は、原則として免除されます。

休学期間が満了になっても、なお引続いて休学をする必要がある場合は、許可されている期間が終わるまでに、休学の延長を願い出てください。

5) 復学願

休学期間の中に休学事由が解消し復学しようとする場合、または休学期間満了により復学する時は、復学願を提出してください。病気による休学で休学期間内に全快して復学しようとする場合は、修学に支障がない旨の診断書を添えてください。

6) 退学願

やむを得ない事情のため退学しようとする場合は、指導教授に相談のうえ退学願を学府長あて提出し許可を受けなければなりません。もし、退学願を出さないで、または許可されないまままで通学しなかった場合は、引き続いて在学しているものとして取り扱われます。授業料の支払いも必要になりますので特に留意してください。

7) 海外渡航願

海外へ渡航する場合は、指導教員の承諾を得て届け出てください。

4. 学 生 証

学生証は、常にこれを携帯し、本学教職員等の要求があったときは呈示しなければなりません。

証明書自動発行機を使用する時にも必要です。裏面は図書館利用者票になっています。情報基盤センター教育用システムのユーザIDとパスワードの一部も印刷されていますので、取扱に注意してください。

学生証を紛失・棄損したときは、再交付願に必要事項を記入し、再発行手数料を納付のうえ再交付を受けてください。

修了・退学等で学生の身分に異動があったときは、直ちに医系学部等学務課大学院係へ返納してください。

5. 授業料の納付

授業料は前期分（4～9月）を4月末まで、後期分（10月～3月）を10月末までに本人又は保護者等の指定口座から本学の銀行口座への口座振替により、納入することになっています。

厚生関係

1. 奨学金

1) 日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で、経済的に困難な学生に貸与されるもので、第一種奨学金と第二種奨学金があります。

募集は入学直後に行いますが、追加があればその都度掲示で通知します。

なお、失職、破産、会社倒産、病気、死亡等又は、火災、風水害等による家計急変のため、緊急に奨学金貸与の必要性が生じた場合には緊急採用もありますので、相談してください。

種 類	貸与月額（平成24年度参考）
第一種奨学金（無利息）	修士・専門職：5万円，8万8千円 博士：8万円，12万2千円
第二種奨学金（有利子）	5万円，8万円，10万円，13万円，15万円から選択

奨学生は、次の点に注意してください。

○**適 格 認 定**：毎年度12月に奨学金継続願を提出しなければなりません。期日までに提出がない場合は、奨学生の資格を失うことになります。

○**異 動 届**：奨学生が休学・退学等学生の身分に異動があった場合はすみやかに異動届を出してください。

○**返還誓約書**：従来貸与終了時に提出していた返還誓約書は機構の運用方針の変更により平成22年度より奨学金採用後、すぐに提出するように変更になります。詳しくは入学後、配付の申請書で確認してください。

○**返 還 猶 予**：奨学金貸与期間満了者は、6ヶ月後から返還義務が生じますが、返還猶予を必要とする場合は、返還期日到来前に「返還の手引き」にしたがって所定の手続きを忘れないでください。

2) その他の奨学金

数は少ないですが地方公共団体、民間等の奨学金がありますので、掲示に注意するとともに、必要な場合は学務部学生生活課に照会してください。

2. 授業料免除

1) 経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者

2) 主たる家計支持者の死亡、または風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難と認められた者は授業料免除の対象者となります。

授業料免除の受付は年2回で、6月（後期分）2月（前期分）に願書を医学学生係で配布するので、掲示に注意してください。

3. 健康 管理

1) 健康科学センター病院地区健康相談室

健康相談、学生相談・カウンセリング、精神保健相談、及び救急処理などの日常業務を行っています。相談・治療に費用は一切かかりません。日常の各相談は、午前9時から午後5時まで受け付けています。休養室もあります。

TEL. 642-6889（ダイヤルイン）

2) 定期健康診断

毎年4月に定期健康診断が病院地区で実施されます。法律で義務づけられたものです。必ず受診してください。受診者には健康診断証明書が発行されます。

3) 特別定期健康診断

実習・実験等で放射性同位元素を取り扱う学生は、定期的に検診を受け、放射線障害等の予防に努めなければなりません。このため、放射線を取り扱う者は、事前に取扱主任者へ登録を行う必要があります。学術総務係が担当しています。

4. 保 険 制 度

1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

正課中・学校行事中及び課外活動中に災害・障害を被った場合並びに通学中及び大学施設等相互間の移動中の事故に対して、その被害の程度に応じて保険金が支払われる全国規模の保険です。全員加入してください。学務課大学院係窓口で受け付けます。

5. そ の 他

1) 生活協同組合の事業所

九州大学の教職員・学生を組合員として運営されています。病院地区には食堂、売店、医系購買店及び医系書籍店があります。詳しくは生協のサービスカウンターで尋ねてください。

病院地区構内図

(医, 歯, 薬学部等)



15. 平成25年度 学年暦 (医学系学府)

行 事 名	日 程	備 考
※前学期開始	4月1日 (月)	
※春季休業	4月1日 (月)～4月10日 (水)	
※学生定期健康診断 (医学系学府関係)	4月2日 (火) 午後 修士・専門職1年 (男女) 4月5日 (金) 午後 修士・専門職2年 (男女) 博士1年～4年 (男女)	
医学系学府大学院入学式 (入学者説明会)	4月8日 (月)	
※前学期授業開始	4月12日 (金)	
前学期授業開始 (医学系学府)	4月15日 (月) (専門職4月9日 (火))	
※本学記念日	5月11日 (土)	休業日
※夏季休業	8月1日 (木)～9月30日 (月)	
※秋季学位記授与式	9月24日 (火)	
※前学期終了	9月30日 (月)	
※後学期開始	10月1日 (火)	
後学期授業開始 (医学系学府)	10月1日 (火)	
※体育祭	10月12日 (土)	
※九大祭	11月22日 (金)～11月25日 (月)	休業日
※冬季休業	12月26日 (木)～1月7日 (火)	
※大学入試センター試験	1月18日 (土)～1月19日 (日)	
※一般入試 (前期日程)	2月25日 (火)～2月26日 (水)	
※一般入試 (後期日程)	3月12日 (水)	
※学位記授与式	3月25日 (火)	
※後学期終了	3月31日 (月)	

(注) 1. ※印は九州大学全学行事

2. 休業日において、特に必要がある場合は授業を行う。

